



Sun N1 Service Provisioning System ユーザーズガイド (SAP Plug-In 1.0)



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-6667-10
2006年5月

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、および Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、および Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved. ©

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 Service Provisioning System User's Guide for SAP Plug-In 1.0

Part No. 819-2886-10

目次

| | |
|---|-----------|
| はじめに | 9 |
| 1 SAP プラグインの概要 | 13 |
| SAP プラグインの目的 | 13 |
| SAP プラグインに含まれるもの | 14 |
| SAP プラグインコンポーネント | 14 |
| SAP プラグインコンポーネントタイプ | 14 |
| SAP プラグインリソースタイプ | 14 |
| SAP プラグインプラン | 16 |
| SAP プラグインシステムサービス | 18 |
| セッション変数 | 18 |
| SAP プラグインを使用するための要件 | 18 |
| SAP ソフトウェアに関する詳細情報 | 19 |
| 2 リリースノート | 21 |
| インストール上の問題 | 21 |
| 実行時の問題 | 21 |
| UTF-8 または EUC ロケールでリモートエージェントを実行しているときにグループ の起動に失敗する | 21 |
| 3 SAP プラグインのインストールと構成 | 23 |
| SAP プラグインのインストールの前に行う作業 | 23 |
| SAP プラグインの入手 | 25 |
| Solaris への SAP プラグインの追加 | 25 |
| ▼ Solaris 用の SAP プラグインパッケージを追加する | 25 |
| SAP プラグインのインポート | 25 |
| ▼ ブラウザインタフェースを使用して SAP プラグインをインポートする | 26 |
| ▼ CLI を使用して SAP プラグインをインポートする | 26 |

| | |
|----------------------------------|-----------|
| 環境に応じたソリューションのカスタマイズ | 26 |
| ▼ マスターサーバーを構成する | 26 |
| ▼ セッション変数を作成する | 28 |
| SAP プラグインのインストール後に行う作業 | 29 |
| ▼ SAP ホストを作成する | 29 |
| ▼ インストール後の環境を作成する | 29 |
| SAP プラグインの削除 | 30 |
| ▼ SAP プラグインを削除する | 31 |
| ▼ コマンド行で SAP プラグインを削除する | 31 |
| SAP プラグインへのパッチの適用 | 31 |
| | |
| 4 SAP プラグインの使用方法 | 33 |
| SAP グループの管理 | 34 |
| ▼ グループ内の SAP インスタンスを一覧表示する | 34 |
| ▼ SAP グループを一覧表示する | 35 |
| ▼ SAP グループを変更する | 36 |
| SCS の構成 | 37 |
| ▼ スタンドアロンの SCS を作成する | 37 |
| ▼ SCS の組み合わせを作成する | 37 |
| グループの作成と管理 | 38 |
| ▼ グループコンポーネントを作成する | 38 |
| ▼ グループコンポーネントを削除する | 39 |
| ▼ グループコンポーネントを起動する | 40 |
| ▼ グループコンポーネントを停止する | 41 |
| ▼ グループコンポーネントを再配置する | 42 |
| ▼ すべてのグループコンポーネントを表示する | 43 |
| 論理ホストの作成と管理 | 43 |
| ▼ 論理ホストを作成する | 43 |
| ▼ 論理ホストを削除する | 45 |
| ▼ 論理ホストを起動する | 46 |
| ▼ 論理ホストを停止する | 46 |
| ▼ すべての論理ホストを表示する | 47 |
| ▼ 論理ホストのオンラインステータスを確認する | 47 |
| ▼ 論理ホストのオフラインステータスを確認する | 48 |
| HA ストレージデバイスの作成と管理 | 49 |
| ▼ HA ストレージデバイスを作成する | 49 |

| | |
|---|----|
| ▼ HA ストレージデバイスを削除する | 51 |
| ▼ HA ストレージデバイスを起動する | 52 |
| ▼ HA ストレージデバイスを停止する | 52 |
| ▼ すべての HA ストレージデバイスを表示する | 53 |
| ▼ HA ストレージデバイスのオンラインステータスを確認する | 53 |
| ▼ HA ストレージデバイスのオフラインステータスを確認する | 54 |
| ネットワークファイルシステムの共有と管理 | 54 |
| ▼ 共有ネットワークファイルシステムを作成する | 55 |
| ▼ 共有ネットワークファイルシステムを削除する | 56 |
| ▼ ネットワークファイルシステムを共有する | 57 |
| ▼ ネットワークファイルシステムの共有を解除する | 58 |
| ▼ すべてのネットワークファイルシステムを表示する | 59 |
| ▼ ネットワークファイルシステムの共有ステータスを確認する | 59 |
| ▼ ネットワークファイルシステムの共有解除のステータスを確認する | 60 |
| ネットワークファイルシステムのマウントと管理 | 60 |
| ▼ ネットワークファイルシステムマウントを作成する | 61 |
| ▼ ネットワークファイルシステムマウントを削除する | 62 |
| ▼ ネットワークファイルシステムをマウントする | 63 |
| ▼ ネットワークファイルシステムをマウント解除する | 64 |
| ▼ すべてのマウント済みのネットワークファイルシステムを表示する | 64 |
| ▼ ネットワークファイルシステムのマウントステータスを確認する | 65 |
| ▼ ネットワークファイルシステムのマウント解除ステータスを確認する | 65 |
| Oracle データベースの作成と管理 | 66 |
| ▼ Oracle データベースを作成する | 66 |
| ▼ Oracle データベースを削除する | 68 |
| ▼ Oracle データベースを起動する | 69 |
| ▼ Oracle データベースを停止する | 70 |
| ▼ すべての Oracle データベースを表示する | 70 |
| ▼ Oracle データベースのオンラインステータスを確認する | 71 |
| ▼ Oracle データベースのオフラインステータスを確認する | 71 |
| SAP Central Instance の作成と管理 | 72 |
| ▼ SAP Central Instance を作成する | 72 |
| ▼ SAP Central Instance を削除する | 74 |
| ▼ SAP Central Instance を起動する | 75 |
| ▼ SAP Central Instance を停止する | 76 |
| ▼ すべての SAP Central Instance を表示する | 77 |
| ▼ SAP Central Instance のオンラインステータスを確認する | 77 |

| | |
|--|-----|
| ▼ SAP Central Instance のオフラインステータスを確認する | 78 |
| SAP Enqueue Server の作成と管理 | 78 |
| ▼ SAP Enqueue Server を作成する | 79 |
| ▼ SAP Enqueue Server を削除する | 81 |
| ▼ SAP Enqueue Server を起動する | 82 |
| ▼ SAP Enqueue Server を停止する | 82 |
| ▼ すべての SAP Enqueue Server を表示する | 83 |
| ▼ SAP Enqueue Server のオンラインステータスを確認する | 83 |
| ▼ SAP Enqueue Server のオフラインステータスを確認する | 84 |
| SAP Message Server の作成と管理 | 85 |
| ▼ SAP Message Server を作成する | 85 |
| ▼ SAP Message Server を削除する | 87 |
| ▼ SAP Message Server を起動する | 88 |
| ▼ SAP Message Server を停止する | 88 |
| ▼ すべての SAP Message Server を表示する | 89 |
| ▼ SAP Message Server のオンラインステータスを確認する | 89 |
| ▼ SAP Message Server のオフラインステータスを確認する | 90 |
| SAP Application Server の作成、管理、およびインストール | 91 |
| Application Server の作成と管理 | 91 |
| ▼ アプリケーションサーバーを作成する | 91 |
| ▼ アプリケーションサーバーを削除する | 93 |
| ▼ アプリケーションサーバーを起動する | 94 |
| ▼ SAP Application Server を停止する | 95 |
| ▼ すべてのアプリケーションサーバーインスタンスを表示する | 96 |
| ▼ アプリケーションサーバーインスタンスのオンラインステータスを確認する | 96 |
| ▼ アプリケーションサーバーインスタンスのオフラインステータスを確認する | 97 |
| アプリケーションサーバーのインストール | 98 |
| ユーザーによる終了 | 107 |
| コンポーネントタイプ | 108 |
| GDS コンポーネント | 108 |
| ▼ GDSResourceType を使用して GDS コンポーネントを作成する | 108 |
| ▼ GDS リソースの作成のプランを生成する | 110 |
| ▼ GDS リソースの削除のプランを生成する | 110 |
| ▼ GDS リソースの起動のプランを生成する | 112 |
| ▼ GDS リソースの停止のプランを生成する | 113 |
| ▼ GDS リソースの isOnline プランを生成する | 114 |
| ▼ GDS リソースの isOffline プランを生成する | 115 |

トラブルシューティング 116

例外ファイルの例 117

索引 119

はじめに

このマニュアルでは、Sun N1™ Service Provisioning System ソフトウェアを使用して、SAP アプリケーションおよびファイルを配備する方法について説明します。

対象読者

このマニュアルの主な対象読者は、SAP の機能を Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに組み込む Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアのシステム管理者およびオペレータです。このようなユーザーには、次の情報に関する十分な知識が必要です。

- Sun N1 Service Provisioning System 製品
- 標準的な UNIX® および Microsoft Windows のコマンドとユーティリティー
- SAP 製品の一般的な概念と管理機能

お読みになる前に

Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアの使用に精通していないユーザーは、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2.1 リリースノート』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』
- 『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』

マニュアルの構成

- 第1章では、このプラグインソリューションの概要を説明します。
- 第2章では、SAP プラグインに関する最新情報と既知の問題について説明します。
- 第3章では、プラグインのインストールおよび構成方法について説明します。
- 第4章では、プラグインを介したアプリケーションとファイルの取得および配備の方法を説明し、プラグインに付属する特定のコンポーネントタイプについて説明します。

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで参照している Sun 以外の URL は、追加の関連情報を提供します。

注 - このマニュアル内で引用する Sun 以外の Web サイトの可用性については、Sun は責任を負いません。Sun は、これらのサイトあるいはリソースに関する、あるいはこれらのサイト、リソースから利用可能であるコンテンツ、広告、製品、あるいは資料に関して一切の責任を負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、以下の追加情報を提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-1 表記上の規則

| 字体または記号 | 意味 | 例 |
|------------------|---|--|
| AaBbCc123 | コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。 | .login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail. |
| AaBbCc123 | ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。 | machine_name% su Password: |
| <i>AaBbCc123</i> | 変数を示します。実際に使用する特定の名称または値で置き換えます。 | ファイルを削除するには、rm filename と入力します。 |

表 P-1 表記上の規則 (続き)

| 字体または記号 | 意味 | 例 |
|---------|--|--|
| 『』 | 参照する書名を示します。 | 『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。 |
| 「」 | 参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。 | 第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。 |
| \ | 枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。 | sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING' |

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

◆ ◆ ◆ 第 1 章

SAP プラグインの概要

この章では、Sun N1 Service Provisioning System を使用した SAP アプリケーションのプロビジョニングに関する一般的な情報について説明します。この章は、次の内容で構成されています。

- 13 ページの「SAP プラグインの目的」
- 14 ページの「SAP プラグインに含まれるもの」
- 18 ページの「セッション変数」
- 18 ページの「SAP プラグインを使用するための要件」
- 19 ページの「SAP ソフトウェアに関する詳細情報」

SAP プラグインの目的

SAP プラグインを Sun N1 Service Provisioning System にインポートすると、Sun Cluster 環境、SAP Adaptive Computing (AC) 環境、およびデフォルトの環境内の、SAP システムを管理できるようになります。SAP プラグインは、次の機能を提供します。

- SPS データベース内の SAP コンポーネントの作成および削除 (*markOnly* と呼ばれるタスク)
- SAP コンポーネントの起動と停止
- すべての SAP コンポーネントの表示
- SAP コンポーネントのステータス (オンラインまたはオフライン) の判別
- デフォルトの例外ファイルを使用した SAP Application Server のプロビジョニング
- カスタム例外ファイルコンポーネントの作成
- カスタム例外ファイルを使用した SAP Application Server のプロビジョニング

注 - デフォルトの環境とは、Sun Cluster や SAP AC のような追加のソフトウェアが使用されていない環境のことです。

SAP プラグインに含まれるもの

SAP プラグインは、`/com/sun/sap` ディレクトリを作成します。

プランとコンポーネントの使用、ホストセット、ホストタイプ、ホストの検索に関する詳細は、[第4章](#)を参照してください。

SAP プラグインコンポーネント

SAP プラグインコンポーネントには、次のものがあります。

- `AppServerWithDefaultExceptionFile`
- `DefaultExceptionFile`

コンポーネントに関する詳細は、『[Sun N1 Service Provisioning System 5.2 プランとコンポーネントの開発者ガイド](#)』の第2章「コンポーネント」を参照してください。

SAP プラグインコンポーネントタイプ

コンポーネントタイプに関する詳細は、『[Sun N1 Service Provisioning System 5.2 プランとコンポーネントの開発者ガイド](#)』の第3章「組み込みコンポーネントタイプ」を参照してください。

- `AppServerWithExceptionFile`
- `ExceptionFile`
- `GDSResourceType`
- `Generic` (汎用)

SAP プラグインリソースタイプ

リソースタイプには、オブジェクトの定義が含まれています。Oracle サーバー用のリソースタイプには、Oracle データベースサーバーの起動時に何を行う必要があるかが定義されています。たとえば、`svrmgr` を呼び出して、データベースサーバーを起動します。論理ホスト用のリソースタイプには、論理ホストの起動時に何を行う必要があるかが定義されています。たとえば、IP アドレスを `plumb` して設定します。リソースタイプは、SAP プラグインでは、コンポーネントとしてモデル化されます。

AppServer このコンポーネントは、SAP Application Server で使用できる SAP アプリケーションサーバーの変数とアクションを定義します。ユーザーは、新しい SAP Application Server を配備 (作成) したり削除したりできます。SAP Application Server を起動、停止できます。また、Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions GUI を使用して、あるマシンから別のマシンへ SAP Application Server を移動することもできます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、SAP Application Server のステータスを確認できます。

| | |
|-----------------|--|
| CentralInstance | このコンポーネントは、SAP Central Instance で使用できる SAP Central Instance の変数とアクションを定義します。SAP プラグインで、主要インスタンスを配備 (作成) することはできません。ただし、OS レベルで主要インスタンスが作成されたあとなら、プラグインを使用して、SPS データベースに SPS コンポーネント (markOnly) を作成することができます。そのあとで、SAP Central Instance を起動、停止することができます。また、Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions GUI を使用して SAP Central Instance を移動することもできます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。 |
| EnqueueServer | このコンポーネントは、SAP Enqueue Server で使用できる SAP Enqueue Server の変数とアクションを定義します。プラグインで、キューに入れるサーバーを配備 (作成) することはできません。ただし、(OS レベルで) キューに入れるサーバーが作成されたあとなら、プラグインを使用して、SPS データベースに SPS コンポーネント (markonly) を作成することができます。そのあとで、SAP Enqueue Server を起動、停止することができます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。 |
| Group | このコンポーネントは、グループで使用できるグループの変数とアクションを定義します。Sun Cluster 環境以外では、SPS のグループコンポーネントに対応する OS レベルの実際のグループエンティティはありません。ほかのコンポーネントおよびグループ内ですべてのコンポーネントで実行される処理は、論理エンティティに含まれます。グループは空のグループであることもあります。グループおよびグループ内のすべてのコンポーネントを起動、停止できます。Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions GUI を使用して、グループを再配置できます。グループのステータスは、Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions GUI でのみ確認できます。また、SPS 内のグループを削除できます。あるいは、SPS および OS レベルで削除できます。 |
| HAStoragePlus | このコンポーネントは、ストレージ管理で使用できるストレージ管理の変数とアクションを定義します。プラグインでは、デバイスグループを作成することも、OS レベルで /etc/vfstab ファイルを作成することもできません。ただし、ストレージ管理情報を取得する HAStoragePlus コンポーネントを作成し、プラグインを使用して、デバイスグループをインポートしてファイルシステムをマウントすることができます。また、ファイルシステムをマウントして、このコンポーネントを使用してデバイスグループをデポートすることもできます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。 |
| LogicalHost | このコンポーネントは、論理ホストで使用できる論理ホストの変数とアクションを定義します。はじめに、物理インタフェースを plumb する必要があります。そのあとで、このコンポーネントを使用して、単一のインタフェース上で、または ipmp グループを通して、論理ホストを plumb できます。論理ホストを unplumb することもできます。プラ |

グインは、異なるホストで同じ論理ホストがすでに起動している場合に、それらを保護します。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。

| | |
|---------------|---|
| MessageServer | このコンポーネントは、SAP Message Server で使用できる SAP Message Server の変数とアクションを定義します。プラグインでは、メッセージサーバーを配備(作成)することはできません。ただし、OS レベルで SAP Message Server が作成されたあとなら、プラグインを使用して、SPS データベースに SPS コンポーネント (markOnly) を作成することができます。そのあとで、SAP Message Server を起動、停止することができます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。 |
| NFSMount | このコンポーネントは、NFS マウントに必要な変数を定義します。ファイルシステムを起動、マウントしたり、ファイルシステムを停止、マウント解除したりできます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。 |
| NFSShare | このコンポーネントは、NFS 共有に必要な変数を定義します。ファイルシステムを起動、共有したり、停止、共有解除したりできます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。 |
| Oracle | このコンポーネントは、Oracle サーバーおよびリスナーに必要な変数を定義します。プラグインでは、OS レベルで Oracle サーバーを作成(配備)することはありません。Oracle サーバーおよびリスナーの情報を取得する Oracle コンポーネントを作成できます。サーバーおよびリスナーを起動、停止できます。Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions GUI を使用して、Oracle サーバーおよびリスナーを移動できます。isOnline プランおよび isOffline プランを使用して、ステータスを確認できます。 |

SAP プラグインプラン

プランに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の第4章「プラン」を参照してください。

- CreateAppServerPlan
- CreateCIPlan
- CreateEnqueueServerPlan
- CreateGroupPlan
- CreateHASPlan
- CreateLogicalHostPlan
- CreateMessageServerPlan
- CreateNFSMountPlan
- CreateNFSPlan

- CreateOracleDBPlan
- DeleteAppServerPlan
- DeleteCIPlan
- DeleteEnqueueServerPlan
- DeleteGroupPlan
- DeleteHASPlan
- DeleteLogicalHostPlan
- DeleteMessageServerPlan
- DeleteNFSMountPlan
- DeleteNFSPPlan
- DeleteOracleDBPlan
- GetSAPGroupsPlan
- GetSAPInstancesPlan
- InstallASWithDefault ExcptFilePlan
- IsAppServerOfflinePlan
- IsAppServerOnlinePlan
- IsCIOfflinePlan
- IsCIOnlinePlan
- IsEnqueueServerOfflinePlan
- IsEnqueueServerOnlinePlan
- IsHASOfflinePlan
- IsHASOnlinePlan
- IsLogicalHostOfflinePlan
- IsLogicalHostOnlinePlan
- IsMessageServerOfflinePlan
- IsMessageServerOnlinePlan
- IsNFSMountOfflinePlan
- IsNFSMountOnlinePlan
- IsNFSShareOfflinePlan
- IsNFSShareOnlinePlan
- IsOracleDBOfflinePlan
- IsOracleDBOnlinePlan
- ModifySAPGroupsPlan
- RelocateGroupPlan
- StartAppServerPlan
- StartCIPlan
- StartEnqueueServerPlan
- StartGroupPlan
- StartHASPlan
- StartLogicalHostPlan
- StartMessageServerPlan
- StartNFSMountPlan
- StartNFSPPlan
- StartOracleDBPlan
- StopAppServerPlan

- StopCIPlan
- StopEnqueueServerPlan
- StopGroupPlan
- StopHASPlan
- StopLogicalHostPlan
- StopMessageServerPlan
- StopNFSMountPlan
- StopNFSPlan
- StopOracleDBPlan
- UninstallASWithDefaultExcpFilePlan

SAP プラグインシステムサービス

システムサービスに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 プランとコンポーネントの開発者ガイド』の「システムサービスの概念」を参照してください。

- AccSS
- AppServerSS
- CentralInstanceSS
- OracleSS
- SAPCentralServicesSS
- SupportComponentSS
- UtilSS

セッション変数

SAP プラグインのセッション変数は次のとおりです。

| | |
|-------------------------------|----------------|
| SAP_DEFAULT_AC_ADMIN_PASSWORD | 文字列 (テキストは不可視) |
| SAP_DEFAULT_AC_ADMIN_USER | 文字列 |
| SAP_DEFAULT_AC_PORT | 数値 |
| SAP_DEFAULT_AC_SERVER | 文字列 |
| AUTHENTICATE_ACC_SERVER_CERT | ブール型 |

SAP プラグインを使用するための要件

SAP プラグインを配備先ホストは、次の要件に適合する必要があります。

| | |
|--------------|--|
| SAP ソフトウェア | SAP のマニュアルを参照してください。 |
| オペレーティングシステム | Solaris 9 (SPARC) および Solaris 10 (SPARC) |

SAP Web Application Server (AS) には、1 つ以上の SAP Web AS インスタンス、および単一のエンティティとして見られる、基になるデータベース管理システム (DBMS) が含まれます。同義語として、SAP システムがよく使用されます。

SAP ソフトウェアに関する詳細情報

プラグインを使用するためには、SAP ソフトウェアの知識が必要です。この製品に関する詳細は、次の SAP に関する情報を参照してください。

- SAP ソフトウェアに関する一般的な情報 (<http://www.sap.com>)
- SAP に関する情報 (http://www.sapdb.org/7.4/sap_db_benchmarks.html#Definition)

リリースノート

この章では、SAP プラグインの最新情報、および既知の問題について説明します。

- 21 ページの「インストール上の問題」
- 21 ページの「実行時の問題」

インストール上の問題

判明しているインストールに関する問題はありません。

実行時の問題

UTF-8 または EUC ロケールでリモートエージェントを実行しているときにグループの起動に失敗する

UTF-8 または EUC ロケールのいずれかで Central Instance システム上のリモートエージェントを実行しているときに、SAP Central Instance グループの起動に失敗します。リモートエージェントが次のロケールで実行されている場合は、グループの起動は動作します。

- C
- de_DE.ISO8859-1
- de_DE.ISO8859-15

この問題は、データベースまたはアプリケーションサーバーグループの起動時にも発生します。

回避策: 使用している環境が UTF-8 または EUC ロケールのいずれかである場合は、SAP リモートエージェントを実行するために、ロケールを C、en_US、または ISO* シングルバイトのロケールに変更する必要があります。

SAP プラグインのインストールと構成

この章では、SAP プラグインをインストールして構成する方法について説明します。この章では、次の内容について説明します。

- 23 ページの「SAP プラグインのインストールの前に行う作業」
- 25 ページの「SAP プラグインの入手」
- 25 ページの「SAP プラグインのインポート」
- 26 ページの「環境に応じたソリューションのカスタマイズ」
- 29 ページの「SAP プラグインのインストール後に行う作業」
- 30 ページの「SAP プラグインの削除」
- 31 ページの「SAP プラグインへのパッチの適用」

SAP プラグインのインストールの前に行う作業

SAP プラグインをインストールする前に行う必要がある一般的な作業は、次のとおりです。

1. マスターサーバーのホストに SPS Master Server (MS)、リモートエージェント (RA)、およびコマンド行インタフェース (CLI) をインストールします。
詳細については『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』を参照してください。
2. すべての SAP マシンに SPS リモートエージェント (RA) をインストールし、それらを準備します。
詳細については『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 インストールガイド』の「Linux および UNIX へのリモートエージェントへの非対話方式によるインストール」を参照してください。
3. すべての SAP central instances および Oracle データベースをインストールします。

注-それらが仮想化されていることを必ず確認してください。

仮想化の概要については、SAP HA Switchover に関するドキュメントおよび『Sun Cluster Data Service for SAP ガイド (Solaris OS 版)』の「フェイルオーバー SAP インスタンスをクラスタで実行可能にする」を参照してください。

4. Sun Cluster の制御下にあるインスタンスの場合は、次の手順に従います。
 - a. クラスタが正しくインストール、設定されていることを確認します。
 - b. すべての Sun Cluster データサービスがインストールされていることを確認します。
 - c. すべての Sun Cluster のリソースおよびリソースグループが正しく設定されていることを確認します。

詳細については『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』を参照してください。

5. SAPAC の制御下にあるインスタンスの場合は、次の手順に従います。
6. 次に挙げることは、ファイルシステムでローカルに管理することは可能ですが、NIS、NIS+、または LDAP によって管理するようにしてください。
 - すべての SAP マシンの、すべての SAP インスタンスのポート情報を含む /etc/services ファイルをアップデートします。
 - すべての SAP ユーザー (*sidadm*) がシステムに存在することを確認します。ユーザーは、/etc/passwd にローカルに定義されています。
 - すべての論理ホスト名がシステムに存在することを確認します。論理ホストは、/etc/hosts に定義されています。
 - グループ情報が、維持管理されている必要があります。グループは、/etc/group に定義されています。
 - 各リソース用に、適切なプロジェクトが作成されている必要があります。プロジェクトファイルの詳細、およびプロジェクト作成についての関連情報は、project(4) のマニュアルページを参照してください。
7. サーバーに、SAP 用のディレクトリが存在する必要があります。これらのディレクトリは、次のいずれかの方法で作成できます。
 - プラグインの nfsshare コンポーネント、または nfsmount コンポーネントを使用
 - NFS を通じて手動でマウント
 - 各ターゲットサーバー上で、手動でディレクトリを作成
 - オートマウンタを使用

注- オートマウンタマップの管理が必要です。

SAP プラグインの入手

SAP プラグインの入手の手順は2段階に分かれます。はじめに SAP プラグイン JAR ファイルが含まれたパッケージファイルをシステムに追加する必要があります。そのあとに SAP プラグイン JAR ファイルをインポートします。

SAP プラグインは、Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアに対するプラグインとしてパッケージ化されています。SAP 用のプラグインファイルは Sun N1 Service Provisioning System 5.2 Supplement CD または Sun Download Center から入手できます。

1. JAR ファイルを含むファイルを追加します。
 - 25 ページの「Solaris への SAP プラグインの追加」
2. JAR ファイルをインポートします。-25 ページの「SAP プラグインのインポート」

Solaris への SAP プラグインの追加

SAP プラグインは、SUNWspssap パッケージに含まれています。

▼ Solaris 用の SAP プラグインパッケージを追加する

- 1 マスターサーバーにログインします。
- 2 スーパーユーザーになります。
- 3 プラグインパッケージを含むディレクトリに移動します。
- 4 次のコマンドを入力し、Return キーを押します。

```
# pkgadd -d package_directory SUNWspssap
```

JAR ファイルは /opt/SUNWn1sps/plugins/com.sun.sap/ ディレクトリにあります。

SAP プラグインのインポート

ある特定のプラグインを Sun N1 Service Provisioning System 製品に認識させるには、そのプラグインをインポートする必要があります。

プラグインをインポートするには、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第5章「プラグインの管理」で詳しく説明されている手順に従います。

▼ ブラウザインタフェースを使用して **SAP** プラグインをインポートする

- 1 ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「**Administrative**」セクションで、「**Plug-ins**」をクリックします。
- 2 「**Plug-ins**」ページの「**Action**」列で、「**Import**」をクリックします。
- 3 「**Browse**」ボタンをクリックし、**JAR** ファイルの場所に移動します。
- 4 **JAR** ファイルを選択し、「**Open**」をクリックします。
- 5 「**Continue to Import**」ボタンをクリックします。
インポートが正常に完了すると、プラグインの詳細ページが開いて、そのプラグインが提供するオブジェクトが表示されます。

▼ **CLI** を使用して **SAP** プラグインをインポートする

コマンド行を使用して、プラグインのアーカイブファイルをインポートすることも可能です。

- ▶ **CLI** からプラグインファイルをインポートするには、次のように入力します。
`% cr_cli -cmd plg.p.add -path plugin-filename -u username -p password`

環境に応じたソリューションのカスタマイズ

プラグインをインポートしたあとで、次の手順に従います。

▼ マスターサーバーを構成する

これらの手順は、SAP プラグインをインポートする前に実行するようにしてください。

- 1 `ReadMe.txt` ファイルを読んで、すべての構成作業が完了していることを確認します。
- 2 セッション変数を作成します。
これらの変数は、SAP AC 環境で SAP インスタンスを管理するとき、および LDAP で SAP ユーザーまたは論理ホストを作成するときに使用されます。
 - `SAP_DEFAULT_AC_ADMIN_PASSWORD`
 - `SAP_DEFAULT_AC_ADMIN_USER`

- SAP_DEFAULT_AC_PORT
- SAP_DEFAULT_AC_SERVER
- AUTHENTICATE_ACC_SERVER_CERT

セッション変数の詳細については、28 ページの「セッション変数を作成する」を参照してください。

- 3 その親としてのマスターサーバーとともに、仮想ホストを作成します。
これは、SPS CLI を実行する目的で作成されます。

注 - 仮想ホストの cliHost が存在し、そのホストタイプが com.sun.was#cliHT の場合は、ほかに cliHost を作成しないでください。

詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の「仮想ホスト」を参照してください。

- a. ブラウザインタフェースのメインウィンドウの「**Host Setup**」セクションで、「**Hosts**」をクリックします。
 - b. 「**Host**」フィールドに **cliHost** と入力します。
 - c. **com.sun.sap#cliHT** ホストタイプを選択します。
 - d. 「**Create**」をクリックします。
 - e. 「**Virtual Host**」オプションを選択します。
 - f. **cliLoc** 属性を、CLI の完全指定パスに変更します。
例: /SPS-INSTALL-PATH/cli/bin/cr_cli。
 - g. マスターサーバーを仮想ホストの親として設定します。
 - i. 「**Select From List**」リンクをクリックします。
 - ii. 「**Current Found Host**」リストからホストを選択します。
 - iii. 「**Add Host to Main Window**」をクリックします。
 - h. 「**Save**」をクリックします。
- 4 /SPS-INSTALL-PATH//server/config/config.properties ファイルに、次の行を追加します。

```
config.allowSessionIDOnHosts=masterserver
pe.defaultPlanTimeout=6000
pe.nonPlanExecNativeTimeout=2400
```

`config.allowSessionIDOnHosts` 行は、プラグインに、Sun N1 Service Provisioning System のリモートエージェントまたは CLI インタフェースを通して、マスターサーバーと通信させるためのものです。

`pe.defaultPlanTimeout` 行は秒数です。デフォルトプランの値を 30 分 (1800 秒) よりも大きくする必要がある場合は、この行を追加します。

`pe.nonPlanExecNativeTimeout` 行は、秒数です。この行は、`execNative` タイムアウトの時間を増やす必要がある場合に追加します。

`config.properties` ファイルは、`SPS-INSTALL-PATH/server/config` ディレクトリにあります。

- 5 `config.properties` ファイルに変更を加えたら、マスターサーバーを再起動します。

▼ セッション変数を作成する

この手順は、作成するそれぞれのセッション変数ごとに繰り返し行います。

始める前に セッション変数は、SAP AC 環境にあって、このプラグインを使用してコンポーネントを管理する場合にのみ設定する必要があります。

- 1 「**Common Tasks**」 ページで、「**Session Variables**」のリンクをクリックします。
- 2 「**Create**」リンクをクリックします。
- 3 セッション変数を作成します。
 - a. セッション変数の名前を入力します。
 - b. (省略可能) 「**Display As Password**」チェックボックスを選択します。
 - c. (省略可能) 説明を入力します。
 - d. セッション変数の値を入力します。
 - e. 管理ユーザーのパスワードを入力します。
- 4 「**Save**」をクリックします。

SAP プラグインのインストール後に行う作業

SAP プラグインをインストールしたあとは、ここに示す作業を実行します。

▼ SAP ホストを作成する

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「Hosts」をクリックします。
- 2 「Create」をクリックします。
- 3 ホスト名を入力します。
- 4 「Host Type」を `com.sun.sap#SAPHT` に設定します。
- 5 `envType` フィールドに、このリモートエージェントに存在し得る環境のタイプをコンマ区切りのリストで入力します。
- 6 (省略可能) `SAPS` の値を入力します。
- 7 「Include Remote Agent on This Physical Host」チェックボックスを選択します。
- 8 接続のタイプを選択します。
- 9 IP アドレスまたは名前を入力します。
- 10 ポート番号を入力します。
- 11 「Save」をクリックします。

詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第2章「ホスト、ホストタイプ、ホストセット、およびホスト検索の管理」を参照してください。

▼ インストール後の環境を作成する

ここで示す手順は、SAP プラグイン用の環境を確立するために行います。

始める前に SAP ホストを作成します。詳細については、29 ページの「SAP ホストを作成する」を参照してください。

- 1 マスターサーバーおよびリモートエージェントを準備します。
詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の「物理ホストを準備する」を参照してください。
- 2 必要に応じて、任意の **SAP** グループタスク用のユーティリティを実行します。
- 3 グループコンポーネントを作成します。
ほかのコンポーネントは、グループコンポーネントに依存関係を設定します。
詳細については、38 ページの「グループの作成と管理」を参照してください。
- 4 グループに論理ホストコンポーネントを追加します。
詳細については、43 ページの「論理ホストの作成と管理」を参照してください。
- 5 **SAP Central Instance** またはデータベースコンポーネントも含むグループ用に、グループにストレージ管理コンポーネントを追加します。
詳細については、49 ページの「HA ストレージデバイスの作成と管理」を参照してください。
- 6 **SAP Central Instance** またはデータベースコンポーネントも含むグループ用に、グループに NFS 共有コンポーネントを追加します。
詳細については、54 ページの「ネットワークファイルシステムの共有と管理」を参照してください。
- 7 主要インスタンスまたは **Oracle** コンポーネントをグループに追加します。
詳細については、72 ページの「SAP Central Instance の作成と管理」または 66 ページの「Oracle データベースの作成と管理」を参照してください。
- 8 **SAP Application Server** も含むグループ用に NFS マウントコンポーネントを追加します。
60 ページの「ネットワークファイルシステムのマウントと管理」を参照してください。

SAP プラグインの削除

ここでは、Sun N1 Service Provisioning System から、プラグインを削除する方法を説明します。詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の「プラグインの削除」を参照してください。

- 31 ページの「SAP プラグインを削除する」
- 31 ページの「コマンド行で SAP プラグインを削除する」

▼ SAP プラグインを削除する

- 1 プラグインのすべてのバージョンによって作成されたすべてのオブジェクトを削除します。
これらのオブジェクトには、ホストを準備するときに自動的にインストールされるシステムサービスも含まれます。
- 2 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「Plans」をクリックします。
- 3 RemoveSAPSystemServicePlan プランに移動します。
- 4 「Details」リンクをクリックします。
- 5 「Run」をクリックします。
- 6 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 7 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

▼ コマンド行で SAP プラグインを削除する

- ▶ CLIディレクトリで、次のコマンドを入力します。

```
./cr_cli -cmd plg.p.del -ID plugin-ID -u admin -p password
```

```
例: ./cr_cli -cmd plg.p.del -ID 010011242111-1146106455699-00215-1170512625 -u admin  
-p admin
```

SAP プラグインへのパッチの適用

SAP プラグインに適用可能なパッチについては、[SunSolve](#) サイトを確認します。パッチを適用するには、パッチの README ファイルの手順に従います。

◆ ◆ ◆ 第 4 章

SAP プラグインの使用法

SAP プラグインを Sun N1 Service Provisioning System にインポートすると、Sun Cluster 環境、SAP AC 環境、およびデフォルトの環境内の、SAP システムを管理できるようになります。Sun N1 Service Provisioning System ソフトウェアを通じて、SAP Application Server インスタンスをプロビジョニングすることもできます。

SAP プラグインは、特定のコンポーネントタイプをいくつも備えています。このプラグインでは、SAP アプリケーションの使用に必要な機能を簡単に使用できます。この章では、次の内容について説明します。

- 34 ページの「SAP グループの管理」
- 37 ページの「SCS の構成」
- 38 ページの「グループの作成と管理」
- 43 ページの「論理ホストの作成と管理」
- 49 ページの「HA ストレージデバイスの作成と管理」
- 54 ページの「ネットワークファイルシステムの共有と管理」
- 60 ページの「ネットワークファイルシステムのマウントと管理」
- 66 ページの「Oracle データベースの作成と管理」
- 72 ページの「SAP Central Instance の作成と管理」
- 78 ページの「SAP Enqueue Server の作成と管理」
- 85 ページの「SAP Message Server の作成と管理」
- 91 ページの「SAP Application Server の作成、管理、およびインストール」
- 107 ページの「ユーザーによる終了」
- 108 ページの「コンポーネントタイプ」
- 116 ページの「トラブルシューティング」
- 117 ページの「例外ファイルの例」

SAP グループの管理

ソフトウェアの「SAP Tasks」ページには、SAP グループを作成および管理するためのリンクがあります。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 34 ページの「グループ内の SAP インスタンスを一覧表示する」
- 35 ページの「SAP グループを一覧表示する」
- 36 ページの「SAP グループを変更する」

▼ グループ内の SAP インスタンスを一覧表示する

この手順は、SAP ログオングループまたは RFC (Remote Function Call) ログオングループ内の SAP インスタンスのリストを生成します。出力は、STDOUT ファイルに記録されます。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Utilities for SAP Groups」セクションで、「Get SAP Instances」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Group identifier

このフィールドは必須です。ログイングループの場合は L、サーバーグループの場合は S を入力します。デフォルト値: L。

Logical host name for SAP system

このフィールドは必須です。

SAP SID

このフィールドは必須です。英数字 3 文字の識別子です。

SAP instance number

このフィールドは必須です。2 桁の数字です。

SAP RFC client that runs RFC calls

このフィールドは必須です。3 桁の数字です。デフォルト値: 000。

SAP user that runs RFC calls

このフィールドは必須です。SAP ユーザー ID です。デフォルト値: sap*。

RFC user password

このフィールドは必須です。

SAP logon group or RFC server group name

このフィールドは必須です。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP グループを一覧表示する

このタスクは、SAP インスタンスの SAP ログオングループまたはサーバーグループを取り出します。結果は、`stdout` に記録されます。

始める前に プランを正常に実行するためには、ターゲットホストのファイルシステムがマウントされている必要があります。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「Utilities for SAP Groups」 セクションで、「Get SAP Group」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

| | |
|--|--|
| Group identifier | このフィールドは必須です。ログイングループの場合は L、サーバーグループの場合は S を入力します。デフォルト値: L。 |
| Logical host name for SAP system | このフィールドは必須です。 |
| SAP SID | このフィールドは必須です。英数字 3 文字の識別子です。 |
| SAP instance number | このフィールドは必須です。2 桁の数字です。 |
| SAP RFC client that runs RFC calls | このフィールドは必須です。デフォルト値: 000。 |
| SAP user that runs RFC calls | このフィールドは必須です。デフォルト値: sap*。 |
| RFC user password | このフィールドは必須です。 |
| SAP logon group or RFC server group name | このフィールドは必須です。 |

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP グループを変更する

SAP グループは、ログオングループまたはサーバーグループにできます。SAP グループを変更すると、グループにインスタンスが追加されるか、またはグループからインスタンスが削除されます。

次に示すパラメータは、ログオングループまたはサーバーグループを一覧表示するか、変更する SAP システム (RFC を呼び出す) を特定します。

- Logical Host Name for SAP System
- SAP Instance Number
- SAP SID

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「Utilities for SAP Groups」 セクションで、「Modify SAP Group」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Group identifier

このフィールドは必須です。ログイングループの場合はL、サーバーグループの場合はSを入力します。デフォルト値:L。

Logical host name for SAP system

このフィールドは必須です。

SAP SID

このフィールドは必須です。英数字 3 文字の識別子です。

SAP instance to modify

SAP インスタンス名に対応するインスタンス名です。

SAP groups containing SAP instance to modify

このフィールドは必須です。グループ名はコンマで区切ります。

I to insert the instance, R to remove the instance from the group

デフォルト値:I。

RFC client

デフォルト値: 000。

RFC user

デフォルト値: ddic。

RFC user password

このフィールドは必須です。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。
結果は、STDOUT に記録されます。

SCSの構成

SAP version 6.40 では、SAP Central Services (SCS) を構成する方法は次の2通りの方法があります。

- スタンドアロンのキューを入れるサーバー - キューを入れるサーバーは、メッセージサーバーだけを起動、および停止できます。
- SCSの組み合わせ - この場合は、キューを入れるサーバーとメッセージサーバーは一緒に起動、停止されます。

SPS SCS の設定に関する詳細は、『SAP Installation Guide』および『Sun Cluster Data Service for SAP Web Application Server ガイド (Solaris OS 版)』を参照してください。

▼ スタンドアロンの SCS を作成する

- 1 グループコンポーネントを作成します。
38 ページの「グループの作成と管理」を参照してください。
- 2 SAP キューを入れるサーバーコンポーネントを作成します。
78 ページの「SAP Enqueue Server の作成と管理」を参照してください。

▼ SCS の組み合わせを作成する

- 1 グループコンポーネントを作成します。
38 ページの「グループの作成と管理」を参照してください。
- 2 SAP Central Instance コンポーネントを作成します。
72 ページの「SAP Central Instance の作成と管理」を参照してください。

グループの作成と管理

ソフトウェアの「Tasks」ページを使用して、グループを作成、管理できます。グループを作成すると、ユーザーは単一ユニットとしてリソースを管理できます。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 38 ページの「グループコンポーネントを作成する」
- 39 ページの「グループコンポーネントを削除する」
- 40 ページの「グループコンポーネントを起動する」
- 41 ページの「グループコンポーネントを停止する」
- 42 ページの「グループコンポーネントを再配置する」
- 43 ページの「すべてのグループコンポーネントを表示する」

▼ グループコンポーネントを作成する

グループは、同じ SAP アプリケーションを処理するホストをまとめる目的で作成されます。

注- このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
 - 2 「SAP Tasks」ページの「Group」セクションで、「Create」をクリックします。
 - 3 「Run」をクリックします。
 - 4 「Plan Parameters」表で、Group コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。
- 次のリストに、Group コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、107 ページの「ユーザーによる終了」を参照してください。

groupName このフィールドは必須です。

注 - Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。

groupDescription グループの説明です。

envType このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAP AC 環境のうちどの環境に配備されるかを特定します。値は、**ac**、**sc**、または **default** のいずれかです。

createdBy コンポーネントのインストーラを特定します。

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

6 プラン変数を指定します。

List of nodes on which this group can run グループ内のリソースで実行されることが事前定義されているノードのリストです。1つ以上のノードをコマンドで区切られたリストにすることができます。空白のままの場合、デフォルトでターゲットホストの値になります。

7 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ グループコンポーネントを削除する

このタスクは、SPS データベースからグループコンポーネントのエントリを削除します。

注- このタスクは、markOnly タスクです。ただし、アプリケーションサーバーがグループのメンバーである場合、「markOnly delete」チェックボックスが選択されていない限り、アプリケーションサーバーはアンインストールされます。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Group」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Group name

このフィールドは必須です。

markOnly delete (default environment only)

このチェックボックスを選択すると、グループ内のアプリケーションサーバーは、ホストからアンインストールされません。

注- このオプションは、デフォルト環境のみ適用されます。Sun Cluster 環境および SAP AC 環境では機能しません。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ グループコンポーネントを起動する

このタスクは、グループコンポーネントの起動制御ブロックを呼び出してグループ内のすべてのリソースを起動します。グループ内のすべてのリソースのステータスは、リソースグループまたはリソースを一覧表示するときに更新されます。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Group」セクションで、「Start」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。

4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

5 プラン変数を指定します。

Group name

このフィールドは必須です。

Force start the resources in the group

このオプションは、ターゲットホストが、SAP インスタンスを起動するための SAPS の要件に合致していない場合は必須です。SAP インスタンスを起動するための最低要件については、SAP のインストールガイドを参照してください。

注- このオプションは、default および SAPAC 環境に適用されます。

6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ グループコンポーネントを停止する

このタスクは、グループコンポーネントの停止制御ブロックを呼び出してグループ内のすべてのリソースを停止します。グループ内のすべてのリソースのステータスは、リソースグループまたはリソースを一覧表示するときに更新されます。

1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。

2 「SAP Tasks」 ページの「Group」 セクションで、「Stop」 をクリックします。

3 「Run」 をクリックします。

4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

5 プラン変数を指定します。

Group name

このフィールドは必須です。

Shutdown mode for database

取り得る値は次のとおりです。normal、immediate、および abort。デフォルト値: immediate。

Force stop resources after graceful stop failed

このオプションは、デフォルトで選択されています。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ グループコンポーネントを再配置する

グループを再配置すると、ある物理ホストから別の物理ホストに、グループ内のすべてのコンポーネントが移動します。

注-このタスクは、デフォルト環境には適用されません。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Group」セクションで、「Relocate」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Group name

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Destination host name

このフィールドは必須です。値が指定されない場合、プランはエラーになります。

Force start the SAP Central Instance on a small server

このオプションは、ターゲットホストが、SAP インスタンスを起動するための SAPS の要件に合致していない場合は必須です。SAP インスタンスを起動するための最低要件については、SAP のインストールガイドを参照してください。

注-このオプションは、SAPAC環境にのみ適用されます。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべてのグループコンポーネントを表示する

このタスクは、すべてのグループコンポーネントを、インストールパスとともに一覧表示します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Group」セクションで、「View All」をクリックします。「Hosts Where Installed」表が表示されます。

論理ホストの作成と管理

論理ホスト名は、ホストマシンでplumbされることが可能なIPアドレスに付与される名前です。あとから、元のホストでunplumbしたり、別のホストマシンでplumbしたりできます。

SAP プラグインの「Tasks」ページを使用して、論理ホストを作成、管理できます。

注-SAPAC環境はサポートされていません。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 43 ページの「論理ホストを作成する」
- 45 ページの「論理ホストを削除する」
- 46 ページの「論理ホストを起動する」
- 46 ページの「論理ホストを停止する」
- 47 ページの「すべての論理ホストを表示する」
- 47 ページの「論理ホストのオンラインステータスを確認する」
- 48 ページの「論理ホストのオフラインステータスを確認する」

▼ 論理ホストを作成する

注-このタスクは、markOnlyタスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Logical Host」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、LogicalHost コンポーネントの変数設定を選択します。

注-デフォルト以外の変数セットを作成またはインポートしてください。デフォルトの変数セットを使用すると、変数の一部が、設定されているほかの変数に依存しているため、プランがエラーになります。

- このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。
「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。
次のリストに、論理ホストコンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。
-

注-UserExitで終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページの「ユーザーによる終了」](#)を参照してください。

| | |
|-------------------------------|--|
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| <hr/> | |
| | 注-Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。 |
| <hr/> | |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster リソース名と等しくなければなりません。 |
| <hr/> | |
| envType | 注-デフォルト環境における resourceName の値は、論理ホスト名でなければなりません。 |
| envType | このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAP AC 環境のうちのどの環境に配備されるかを特定します。値は、 ac 、 sc 、または default です。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| ipAddress | デフォルト環境では必須です。 |
| This task is a markOnly task. | デフォルト環境では必須です。 |

| | |
|------------------------|--|
| | 詳細については、 <code>netmasks(4)</code> のマニュアルページを参照してください。 |
| <code>interface</code> | デフォルト環境では必須です。このフィールドには、1つのインタフェースまたは <code>ipmpgroup</code> の値を入力します。例: <code>hme0</code> 。 |
| <code>broadcast</code> | デフォルト環境では必須です。ブロードキャスト IP アドレスです。詳細については、 <code>ifconfig(1M)</code> のマニュアルページを参照してください。 |
| <code>ipmpgroup</code> | IPMP グループ名です。このフィールドには、インタフェースの値を入力します。詳細は、『Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions 5.2.1 Implementation Guide』を参照してください。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ 論理ホストを削除する

このタスクは、論理ホストコンポーネントのアンインストール制御ブロックを呼び出します。

注- このタスクは、`markOnly` タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Logical Host」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。

- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the logical host このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ 論理ホストを起動する

このタスクは、論理ホストコンポーネントの起動制御ブロックを呼び出します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Logical Host」セクションで、「Start」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the logical host component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ 論理ホストを停止する

このタスクは、論理ホストコンポーネントの停止制御ブロックを呼び出します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Logical Host」セクションで、「Stop」をクリックします。

- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the logical host component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべての論理ホストを表示する

このタスクは、論理ホストコンポーネントがインストールされているすべてのホストを表示します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Logical Host」セクションで、「View All」をクリックします。
「Hosts Where Installed」表が表示されます。

▼ 論理ホストのオンラインステータスを確認する

このタスクは、論理ホストがオンラインであるかどうかを判別するシステムサービス `isOnlineDefaultLh` を呼び出します。ステータスは、ping または netstat コマンドを使用してチェックされます。

論理ホストがオンラインであるかどうかを判別するには、IPアドレスがチェックされます。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Logical Host」セクションで、「Online Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the logical host component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ 論理ホストのオフラインステータスを確認する

このタスクは、論理ホストがオンラインであるかどうかを判別するシステムサービス `isOnlineDefaultLh` を呼び出します。ステータスは、ping または `netstat` コマンドを使用してチェックされます。

論理ホストがオフラインであるかどうかを判別するには、IP アドレスがチェックされます。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Logical Host」セクションで、「Offline Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the logical host component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

HAストレージデバイスの作成と管理

ソフトウェアの「SAP Tasks」ページを使用して、ストレージを作成、管理できます。

注-SAPAC環境はサポートされていません。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 49 ページの「HAストレージデバイスを作成する」
- 51 ページの「HAストレージデバイスを削除する」
- 52 ページの「HAストレージデバイスを起動する」
- 52 ページの「HAストレージデバイスを停止する」
- 53 ページの「すべてのHAストレージデバイスを表示する」
- 53 ページの「HAストレージデバイスのオンラインステータスを確認する」
- 54 ページの「HAストレージデバイスのオフラインステータスを確認する」

▼ HAストレージデバイスを作成する

このタスクは、リソースグループ内に高可用性ストレージ (HAS) ターゲット設定可能コンポーネントを作成します。

注-このタスクは、markOnlyタスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Storage Management」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、HASStoragePlus コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。

次のリストに、HAStoragePlus コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページの「ユーザーによる終了」](#)を参照してください。

| | |
|---------------------|--|
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| | 注 - Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。 |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster リソース名と等しくなければなりません。 |
| envType | このフィールドは必須です。このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAPAC 環境のうちどの環境に配備されるかを特定します。値は、ac、sc、または default です。デフォルト値: default。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| volumeManager | 取り得る値は2つあります。Veritas の場合は vxvm、Solaris Volume Manager の場合は svm。 |
| | 注 - Device Groups to be Imported プラン変数に値を入力する場合は、volumeManager コンポーネントの変数の値を入力してください。 |
| dgForceStartOptions | デバイスグループを強制的にオンラインにする必要がある場合に使用するオプションです。デフォルトは、vxvm は強制オプションに設定されています。デフォルト値: -Ct |
| targetRefName | 仮想ホスト名です。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 6 プラン変数を指定します。

Device groups to be imported

コンマで区切られたリストです。デバイスグループは、自由形式の文字列です。例: cidg、dbdg。プラグインは、デバイスグループを現在のマシン (targetHost) にインポートします。

注- この変数が設定されている場合は、volumeManager コンポーネント変数が設定されている必要があります。

- 7 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ HA ストレージデバイスを削除する

このプランは、高可用性ストレージ (HAS) コンポーネントを削除します。

注- このタスクは、markOnlyタスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Storage Management」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the HAS component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ HAストレージデバイスを起動する

HAストレージの起動の前には、プラグインは依存関係を一切チェックしません。起動後に、プラグインは主プロセスが動作していることを検査します。SAP Application Serverの主プロセスは、主ディスパッチャープロセスです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Storage Management」セクションで、「Start」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Install path of the HAS component

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Force start the HAS component after normal start failed in the default environment

詳細については、vxdg(1M)のマニュアルページを参照してください。



注意-デバイスグループが別のマシンで使用されていないことを確認してください。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ HAストレージデバイスを停止する

このタスクは、HASコンポーネントのstop制御ブロックを呼び出します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Storage Management」セクションで、「Stop」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。

- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the HAS component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべてのHAストレージデバイスを表示する

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Storage Management」セクションで、「View All」をクリックします。
「Host Where Installed」表が表示されます。

▼ HAストレージデバイスのオンラインステータスを確認する

このプランは、高可用性ストレージ (HAS) コンポーネントのオンラインステータスを確認します。ステータスは、対応するボリュームマネージャーのコマンドでチェックされます。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Storage Management」セクションで、「Online Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the HAS component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View

All」リンクをクリックします。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ HAストレージデバイスのオフラインステータスを確認する

このプランは、高可用性ストレージ (HAS) コンポーネントのオフラインステータスを確認します。ステータスは、対応するボリュームマネージャーのコマンドでチェックされます。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Storage Management」セクションで、「Offline Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the HAS component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

ネットワークファイルシステムの共有と管理

この節では、次のタスクについて説明します。

- 55 ページの「共有ネットワークファイルシステムを作成する」
- 56 ページの「共有ネットワークファイルシステムを削除する」
- 57 ページの「ネットワークファイルシステムを共有する」
- 58 ページの「ネットワークファイルシステムの共有を解除する」
- 59 ページの「すべてのネットワークファイルシステムを表示する」

- 59 ページの「ネットワークファイルシステムの共有ステータスを確認する」
- 60 ページの「ネットワークファイルシステムの共有解除のステータスを確認する」

注-SAPAC環境はサポートされていません。

▼ 共有ネットワークファイルシステムを作成する

このタスクは、ネットワークファイルシステム (NFS) 共有コンポーネントを作成します。

注-このタスクは、markOnlyタスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Share」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、NFSShare コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。
「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。
次のリストに、NFSShare コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注-UserExitで終わるコンポーネント変数の詳細については、107 ページの「ユーザーによる終了」を参照してください。

groupName このフィールドは必須です。

| | |
|------------------|---|
| | 注 - Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。 |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster リソース名と等しくなければなりません。 |
| envType | このコンポーネントが配備される環境を特定します。デフォルトまたは Sun Cluster のいずれかです。値は、default または sc です。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| targetRefName | 仮想ホスト名です。ほかの変数から派生します。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

6 プラン変数を指定します。

Absolute path of NFS shares デフォルト環境では必須です。コンマで区切られたリストです。

NFS share options デフォルト環境では必須です。デフォルト値: rw。

7 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ 共有ネットワークファイルシステムを削除する

このタスクは、ネットワークファイルシステム (NFS) 共有コンポーネントを削除する方法を説明しています。

注 - このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Share」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the NFS share component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムを共有する

NFS ターゲット設定可能なコンポーネントは、NFS を介して共有されるファイルシステムに関する情報を含んでいます。共有されるファイルシステムは、仮想ホスト変数として格納されるため、コンポーネントがインストールされたあとに、共有するファイルシステムを追加できます。

仮想ホスト名は、NFS コンポーネントの `installPath` と同じ値に設定されます。

このタスクは、次のことを行うファイルシステムサービス `startNfs` を呼び出します。

- デフォルト環境では、UNIX の `share` コマンドを使用することによってファイルシステムを共有します。
- Sun Cluster 環境では、Sun Cluster の `scswitch -ej` を呼び出し、NFS を起動します。
- SAP AC 環境には適用されません。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Share」セクションで、「Share」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。

- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the NFS share component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムの共有を解除する

このタスクは、次のことを行うファイルシステムサービス stopNfs を呼び出します。

- デフォルト環境では、unshare コマンドを呼び出し、NFS リソースを停止します。
 - Sun Cluster 環境では、Sun Cluster の scswitch -nj コマンドを呼び出し、NFS リソースを停止します。
 - SAP AC 環境には適用されません。
- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
 - 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Share」セクションで、「Unshare」をクリックします。
 - 3 「Run」をクリックします。
 - 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
 - 5 プラン変数を指定します。
Install path of the NFS share component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
 - 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべてのネットワークファイルシステムを表示する

このタスクは、ネットワークファイルシステムコンポーネントがインストールされているすべてのホストを表示します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。
- 2 「**SAP Tasks**」ページの「**Network File System (NFS) Share**」セクションで、「**View All**」をクリックします。
「**Hosts Where Installed**」表が表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムの共有ステータスを確認する

このタスクは、ファイルシステムが共有されているかどうかを特定します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。
- 2 「**SAP Tasks**」ページの「**Network File System (NFS) Share**」セクションで、「**Share Status**」をクリックします。
- 3 「**Run**」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the NFS share component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「**SAP Tasks**」ページに戻って「**View All**」リンクをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。
「**Deployment Results**」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムの共有解除のステータスを確認する

このタスクは、共有されていないファイルシステムを特定します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。
- 2 「**SAP Tasks**」ページの「**Network File System (NFS) Share**」セクションで、「**Unshare Status**」をクリックします。
- 3 「**Run**」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the NFS share component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「**SAP Tasks**」ページに戻って「**View All**」リンクをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。
「**Deployment Results**」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

ネットワークファイルシステムのマウントと管理

NfsMount コンポーネントは、NFS を介してマウントされているファイルシステムに関する情報を含みます。コンポーネントがインストールされたあとは、この情報を変更することはできません。

注 - Sun Cluster 環境および SAPAC 環境はサポートされていません。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 61 ページの「ネットワークファイルシステムマウントを作成する」
- 62 ページの「ネットワークファイルシステムマウントを削除する」
- 63 ページの「ネットワークファイルシステムをマウントする」
- 64 ページの「ネットワークファイルシステムをマウント解除する」
- 64 ページの「すべてのマウント済みのネットワークファイルシステムを表示する」
- 65 ページの「ネットワークファイルシステムのマウントステータスを確認する」
- 65 ページの「ネットワークファイルシステムのマウント解除ステータスを確認する」

▼ ネットワークファイルシステムマウントを作成する

このタスクは、ネットワークファイルシステム (NFS) マウントコンポーネントを作成します。

注-このタスクは、markOnlyタスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Mount」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、NFSSMount コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。
「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。
次のリストに、NFSSShare コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページの「ユーザーによる終了」](#)を参照してください。

groupName このフィールドは必須です。

注 - Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。

groupDescription グループの説明です。

resourceName Sun Cluster 環境では必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster リソース名と等しくなければなりません。

| | |
|----------------------|--------------------------------------|
| envType | 環境のタイプはデフォルトのみです。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| nfsServerName | デフォルト環境では必須です。NFS サーバーの論理ホスト名です。 |
| fileSystemMountPoint | デフォルト環境では必須です。コンマで区切られたディレクトリのリストです。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムマウントを削除する

このタスクは、ネットワークファイルシステム (NFS) マウントコンポーネントを削除する方法を説明しています。

注- このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Mount」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Install path of the NFS mount component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムをマウントする

このタスクは、次のことを行うファイルシステムサービス `startNfsMount` を呼び出します。

- デフォルト環境では、このタスクは、UNIX の `mount` コマンドを使用することによってファイルシステムを共有します。
- Sun Cluster 環境では、適切な Sun Cluster コマンドが呼び出されます。
- SAP AC 環境では、このタスクは適用されません。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Mount」セクションで、「Mount」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Install path of the NFS mount component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムをマウント解除する

このタスクは、次のことを行うファイルシステムサービス `stopNfsMount` を呼び出します。

- デフォルト環境では、このタスクは、`umount` コマンドを呼び出し、NFS マウントリソースを停止します。
- Sun Cluster 環境では、適切な Sun Cluster コマンドが呼び出されます。
- SAP AC 環境では、このタスクは適用されません。

1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。

2 「**SAP Tasks**」ページの「**Network File System (NFS) Mount**」セクションで、「**Unmount**」をクリックします。

3 「**Run**」をクリックします。

4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

5 プラン変数を指定します。

Install path of the NFS mount component

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Force unmounting the filesystem

このチェックボックスは、デフォルトで選択されています。

6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。

「**Deployment Results**」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべてのマウント済みのネットワークファイルシステムを表示する

1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。

- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Mount」セクションで、「View All」をクリックします。
「Hosts Where Installed」表が表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムのマウントステータスを確認する

このプランは、ネットワークファイルシステムがマウントされていることを検査します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Mount」セクションで、「Mount Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the NFS mount component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ ネットワークファイルシステムのマウント解除ステータスを確認する

このプランは、ネットワークファイルシステムがマウントされていることを検査します。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Network File System (NFS) Mount」セクションで、「Unmount Status」をクリックします。

- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the NFS mount component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

Oracle データベースの作成と管理

SAP プラグインの「Tasks」ページを使用して、Oracle データベースを作成、管理できます。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 66 ページの「Oracle データベースを作成する」
- 68 ページの「Oracle データベースを削除する」
- 69 ページの「Oracle データベースを起動する」
- 70 ページの「Oracle データベースを停止する」
- 70 ページの「すべての Oracle データベースを表示する」
- 71 ページの「Oracle データベースのオンラインステータスを確認する」
- 71 ページの「Oracle データベースのオフラインステータスを確認する」

▼ Oracle データベースを作成する

このタスクは、Oracle データベースコンポーネントを作成します。このタスクで、OS レベルで作成するものではありません。

注- このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Oracle Database」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。

4 「Plan Parameters」表で、Oracle コンポーネントの変数設定を選択します。

- このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
- 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。

「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。

次のリストに、Oracle コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページ](#)の「ユーザーによる終了」を参照してください。

| | |
|------------------|--|
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster Oracle Server リソース名と等しくなければなりません。 |
| envType | このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAP AC 環境のうちどの環境に配備されるかを識別します。値は、ac、sc、または default です。デフォルト値: default。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| dbLhName | デフォルト環境では必須です。データベース用の論理ホスト名です。 |
| oracleSid | デフォルト環境では必須です。データベース用のシステム ID (SID) です。 |
| oracleEnvFile | デフォルト環境では必須です。Oracle 環境ファイルの絶対パスです。例: /oracle/SID.dbenv_host.sh。 |
| listenerName | Sun Cluster 環境では必須です。Oracle リスナー名です。デフォルト値: LISTENER。 |

| | |
|----------------------|--|
| listenerResourceName | listenerResourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster Oracle Listener リソース名と等しくなければなりません。 |
| accServiceID | SAPAC 環境では必須です。Oracle インスタンスのサービス ID です (SAPAC 環境にのみ適用)。 |
| srmProject | SRM (Solaris Resource Management) プロジェクト名です。デフォルト値: default。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ Oracle データベースを削除する

このタスクは、Oracle データベースコンポーネントを削除します。このタスクで、OS レベルで削除するものではありません。

注- このタスクは、markOnly タスクです。

- N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 「SAP Tasks」ページの「Oracle Database」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 「Run」をクリックします。
- ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- プラン変数を指定します。

| | |
|--------------------------------------|---|
| Install path of the Oracle component | このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。 |
|--------------------------------------|---|

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ Oracle データベースを起動する

Oracle データベースの起動の前には、プラグインは依存関係を一切チェックしません。起動後に、プラグインは主プロセスが動作していることを検査します。Oracle データベースの主プロセスは、次のとおりです。

- 少なくとも1つの `oracleSID` プロセス
- `ora_pmon_SID` プロセス

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Oracle Database」セクションで、「Start」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Install path of the Oracle component to start

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Force start the Oracle database

このオプションは、ターゲットホストが、SAP インスタンスを起動するための SAPS の要件に合致していない場合は必須です。SAP インスタンスを起動するための最低要件については、SAP のインストールガイドを参照してください。

注 - このオプションは、SAP AC 環境にのみ適用されます。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ Oracle データベースを停止する

SAP Oracle コンポーネントがオフラインの場合は、プランは、ほかのアクションを行わなくても正常に完了します。SAP Oracle コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは、SAP コンポーネントを停止します。正常に停止されなかった場合で、かつ「Force Stop」オプションを選択している場合は、プランは主プロセスを終了することによってハードストップを実行します。その後、プランはSAP Oracle コンポーネントがオフラインであることを検査します。オフラインであれば、プランは正常に完了します。SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは失敗します。ステータスを判別するために使用されるプロセスは、次のとおりです。

- 少なくとも1つの `oracleSID` プロセス
- `ora_pmon_SID` プロセス

1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。

2 「SAP Tasks」ページの「Oracle Database」セクションで、「Stop」をクリックします。

3 「Run」をクリックします。

4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

5 プラン変数を指定します。

Install path of the Oracle component to stop

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Shutdown mode

有効な停止モードは、normal、immediate、およびabortです。デフォルト値: immediate。

6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべての Oracle データベースを表示する

1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。

2 「SAP Tasks」ページの「Oracle Database」セクションで、「View All」をクリックします。「Hosts Where Installed」表が表示されます。

▼ Oracle データベースのオンラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

主プロセスは、次のとおりです。

- 少なくとも1つの `oracleSID` プロセス
- `ora_pmon_SID` プロセス

このタスクは、Oracle データベースのオンラインステータスをチェックします。

- 1 **N1 SPS** のブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。
- 2 「**SAP Tasks**」ページの「**Oracle Database**」セクションで、「**Online Status**」をクリックします。
- 3 「**Run**」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the Oracle component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「**Run Plan (includes preflight)**」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ Oracle データベースのオフラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

主プロセスは、次のとおりです。

- 少なくとも1つの `oracleSID` プロセス

- ora_pmon_SID プロセス

このタスクは、Oracle データベースのオフラインステータスをチェックします。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Oracle Database」セクションで、「Offline Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the Oracle component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

SAP Central Instance の作成と管理

ソフトウェアの「Common Tasks」ページを使用して、SAP Central Instance を作成、管理できます。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 72 ページの「SAP Central Instance を作成する」
- 74 ページの「SAP Central Instance を削除する」
- 75 ページの「SAP Central Instance を起動する」
- 76 ページの「SAP Central Instance を停止する」
- 77 ページの「すべての SAP Central Instance を表示する」
- 77 ページの「SAP Central Instance のオンラインステータスを確認する」
- 78 ページの「SAP Central Instance のオフラインステータスを確認する」

▼ SAP Central Instance を作成する

このタスクは、SAP Central Instance コンポーネントを作成します。

注- このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Central Instance」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、CentralInstance コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。
「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。
次のリストに、CentralInstance コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページの「ユーザーによる終了」](#)を参照してください。

| | |
|------------------|---|
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster リソース名と等しくなければなりません。 |
| envType | このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAPAC 環境のうちどの環境に配備されるかを特定します。値は、ac、sc、または default です。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |

| | |
|----------------------|--|
| ciLhName | このフィールドは必須です。SAP Central Instance 用の論理ホスト名です。 |
| sapSid | このフィールドは必須です。SAP システム ID は、大文字の英数字 3 文字です。最初の文字は英字である必要があります。 |
| systemInstanceNumber | このフィールドは必須です。SAP Central Instance 番号は、2 桁の数字です。 |
| accServiceID | SAP AC 環境では必須です。SAP Central Instance のサービス ID です (SAP AC 環境にのみ適用)。 |
| srmProject | SRM (Solaris Resource Management) プロジェクト名です。デフォルト値: default。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

注 - Sun Cluster 環境および SAP AC 環境では、Sun N1 Service Provisioning System にコンポーネントが作成される時に、必須フィールドの入力を促すためのコードの検証は行われません。

▼ SAP Central Instance を削除する

このタスクは、SPS データベース内の SAP Central Instance コンポーネントを削除します。このタスクで、OS レベルで削除するものではありません。

注 - このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。

- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Central Instance」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path where the Central Instance is installed
このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Central Instance を起動する

SAP Central Instance の起動の前には、プラグインは依存関係を一切チェックしません。起動後に、プラグインは主プロセスが動作していることを検査します。SAP Central Instance の主プロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- message server
- 主ディスパッチャーからの2つの dw 子プロセス

プラグインは、SAP の `startsap_DVEBMGS_instance-num_logical-host` スクリプトを呼び出すことによって SAP CI インスタンスを起動します。デフォルトインストールでこのスクリプトが作成されなかった場合は、ユーザーの `sidadm` のホームディレクトリで、このスクリプトを手動で作成する必要があります。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Central Instance」セクションで、「Start」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

| | |
|--|--|
| Install path of the Central Instance component | このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。 |
| Force start the SAP Central Instance | このオプションは、ターゲットホストが、SAP インスタンスを起動するための SAPS の要件に合致していない場合は必須です。SAP インスタンスを起動するための最低要件については、SAP のインストールガイドを参照してください。 |

注- これは、SAPAC 環境にのみ適用されます。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Central Instance を停止する

SAP コンポーネントがオフラインの場合は、プランは、ほかのアクションを行わなくても正常に完了します。SPS コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは、SAP コンポーネントを停止します。正常に停止されなかった場合で、かつ「Force Stop」オプションを選択している場合は、プランは主プロセスを終了することによってハードストップを実行します。その後、プランはSAP コンポーネントがオフラインであることをチェックします。オフラインであれば、プランは正常に完了します。SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは失敗します。ステータスを判別するために使用されるプロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- message server
- 少なくとも2つの dw 子プロセス

プラグインは、SAP の `stopsap_DVEBMGS_instance-num-logical-host` スクリプトを呼び出すことによって、SAP CI インスタンスを停止します。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Central Instance」セクションで、「Stop」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。

- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Install path of the Central Instance component

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Force stop SAP Central Instance after the graceful stop failed in the default environment

このオプションは、デフォルトで選択されています。SC 環境および AC 環境では、対応する Sun Cluster コマンド、または SAP AC コマンドが呼び出され、コンポーネントが起動します。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべての SAP Central Instance を表示する

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「SAP Central Instance」 セクションで、「View All」 をクリックします。
「Hosts Where Installed」 表が表示されます。

▼ SAP Central Instance のオンラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

主プロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- message server

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「SAP Central Instance」 セクションで、「Online Status」 をクリックします。
- 3 プラン変数を指定します。

Install path of the SAP Central Instance component

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

- 4 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Central Instance のオフラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

主プロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- message server

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「SAP Central Instance」セクションで、「Offline Status」をクリックします。
- 3 プラン変数を指定します。

Install path of the SAP Central Instance component

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

- 4 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

SAP Enqueue Server の作成と管理

すべてのソフトウェアおよびハードウェアコンポーネントについて、SAP システムの高可用性を保証するには、スタンドアロンのキューを入れるサーバーを使用します。スタンドアロンのキューを入れるサーバーを使用するということは、ロックテーブルを持つ重要なキューを入れるサーバーは、可能な限り小さくなるということを意味します。キューを入れるプロセスおよびロックテーブルを持つ完全なアプリケーションサーバー

ではなく、キューを入れるサーバーとメッセージサーバーだけから成る、1つの小さな主要インスタンスを持つことになります。この1つの主要インスタンスを、高可用性(HA)ソリューションにします。

スタンドアロンのキューを入れるサーバーには次の利点があります。

- キューを入れるクライアント(SAPアプリケーションサーバー)とキューを入れるサーバーが直接通信します。作業プロセスは、キューを入れるサーバーとTCP接続します。
- レプリケーションサーバーを持つ高可用性サーバーソリューションの一部として、スタンドアロンのキューを入れるサーバーを実装できます。したがって、キューを入れるサーバーは、より信頼性が高くなります

注-SAPACはサポートされていません。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 79 ページの「SAP Enqueue Server を作成する」
- 81 ページの「SAP Enqueue Server を削除する」
- 82 ページの「SAP Enqueue Server を起動する」
- 82 ページの「SAP Enqueue Server を停止する」
- 83 ページの「すべての SAP Enqueue Server を表示する」
- 83 ページの「SAP Enqueue Server のオンラインステータスを確認する」
- 84 ページの「SAP Enqueue Server のオフラインステータスを確認する」

▼ SAP Enqueue Server を作成する

このタスクは、SPS データベースに SAP Enqueue Server コンポーネントを作成します。SAP Enqueue Server は、SAP プラグインの外側の、OS レベルで、ユーザーによって作成されます。

注-このタスクは、markOnlyタスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Enqueue Server」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、Enqueue Server コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。

- 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。
 - 「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。

次のリストに、Enqueue Server コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページの「ユーザーによる終了」](#)を参照してください。

| | |
|----------------------|--|
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| <hr/> | |
| | 注 - Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。 |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | このフィールドは必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster リソース名と等しくなければなりません。 |
| envType | このフィールドは必須です。このコンポーネントが、デフォルト環境または Sun Cluster 環境のどちらに配備されるかを特定します。値は、default、または sc です。デフォルト値: default。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| sapSid | デフォルト環境および Sun Cluster 環境では必須です。SAP システム ID は、大文字の英数字 3 文字です。最初の文字は英字である必要があります。 |
| instanceNumber | デフォルト環境および Sun Cluster 環境では必須です。SAP Central Instance 番号は、2 桁の数字です。 |
| enqueueServerProfile | デフォルト環境および Sun Cluster 環境では必須です。SAP Enqueue Server プロファイルへのフルパスです。 |
| stopSignal | SAP Enqueue Server の停止に使用する信号です。デフォルト値: 2 |
| srmProject | SRM (Solaris Resource Management) プロジェクト名です。デフォルト値: default。 |

- b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。
変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。
- 5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
 - 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Enqueue Server を削除する

このタスクは、SPS データベースの SAP Enqueue Server コンポーネントを削除します。ユーザーによって OS レベルで作成された SAP Enqueue Server は削除されません。

注-このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Enqueue Server」セクションで、「Delete」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the enqueue server このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Enqueue Server を起動する

SAP Enqueue Server の起動の前には、プラグインは依存関係を一切チェックしません。起動後に、プラグインは主プロセスが動作していることを検査します。SAP Enqueue Server の主プロセスは、enserver プロセスです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Enqueue Server」セクションで、「Start」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the enqueue server component. このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Enqueue Server を停止する

SAP コンポーネントがオフラインの場合は、プランは、ほかのアクションを行わなくても正常に完了します。SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは、SAP コンポーネントを停止します。

正常に停止されなかった場合で、かつ「Force Stop」オプションを選択している場合は、プランは主プロセスを終了することによってハードストップを実行します。その後、プランは SAP コンポーネントがオフラインであることを検査します。オフラインであれば、プランは正常に完了します。SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは失敗します。ステータスを判別するために使用されるプロセスは、enserver プロセスです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Enqueue Server」セクションで、「Stop」をクリックします。

- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

Install path of the SAP enqueue server component

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Force stop SAP Enqueue Server after the graceful stop failed in the default environment.

このオプションは、デフォルトで選択されています。

▼ すべての SAP Enqueue Server を表示する

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Enqueue Server」セクションで、「View All」をクリックします。
「Hosts Where Installed」表が表示されます。

▼ SAP Enqueue Server のオンラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

主プロセスは、enserver プロセスです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Enqueue Server」セクションで、「Online Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

注-ホストは1つだけ選択します。

- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the enqueue server component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Enqueue Server のオフラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

主プロセスは、enserver プロセスです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Enqueue Server」セクションで、「Offline Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

注-ホストは1つだけ選択します。

- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the enqueue server component. このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

SAP Message Server の作成と管理

SAP Message Server は、アプリケーションサーバー間で通信を行う役割を担います。SAP Message Server は、システム内の、あるアプリケーションサーバーからの要求を、別のアプリケーションサーバーに渡します。

また、SAP Message Server には、アプリケーションサーバーグループおよびグループ内の現在の負荷分散に関する情報も含まれています。SAP Message Server は、ユーザーがシステムにログオンしたときに適切なサーバーを選択するためにこの情報を使用します。

注-SAPACはサポートされていません。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 85 ページの「SAP Message Server を作成する」
- 87 ページの「SAP Message Server を削除する」
- 88 ページの「SAP Message Server を起動する」
- 88 ページの「SAP Message Server を停止する」
- 89 ページの「すべての SAP Message Server を表示する」
- 89 ページの「SAP Message Server のオンラインステータスを確認する」
- 90 ページの「SAP Message Server のオフラインステータスを確認する」

▼ SAP Message Server を作成する

このタスクは、SPS データベースの SAP Message Server コンポーネントを作成します。SAP Message Server は、SAP プラグインの外側の、OS レベルで、ユーザーによって作成されます。

注-このタスクは、markOnlyタスクです。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Message Server」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、Message Server コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。

- a. 「Select From List」 をクリックします。

「Select Variable Settings From List」 ウィンドウが表示されます。

- 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」 を選択して「Set Name」 に設定名を入力します。

次のリストに、Enqueue Server コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、107 ページの「ユーザーによる終了」を参照してください。

| | |
|------------------|---|
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | デフォルト環境および Sun Cluster 環境では必須です。resourceName は、Sun Cluster envType の Sun Cluster リソース名と等しくなければなりません。 |
| envType | このコンポーネントが、デフォルト環境または Sun Cluster 環境のどちらに配備されるかを特定します。値は、sc、または default です。デフォルト値: default。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| sapSid | デフォルト環境および Sun Cluster 環境では必須です。SAP システム ID は、大文字の英数字 3 文字です。最初の文字は英字である必要があります。 |
| msgLhName | デフォルト環境および Sun Cluster 環境では必須です。メッセージサーバー用の論理ホスト名です。 |
| instanceName | デフォルト環境および Sun Cluster 環境では必須です。インスタンスの名前です (SAP の起動プロファイルでは、INSTANCE_NAME)。名前には、大文字の 3 つの英字と 2 つの数字が少なくとも含まれている必要があります。例: ABC01。 |
| srmProject | SRM (Solaris Resource Management) プロジェクト名です。デフォルト値: default。 |

- b. 「Save」 をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」 をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

- 5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

注 - Sun Cluster 環境では、Sun N1 Service Provisioning System にコンポーネントが作成されるときに、必須フィールドの入力を促すためのコードの検証は行われません。

▼ SAP Message Server を削除する

このプランは、SPS データベースの SAP Message Server コンポーネントを削除します。ユーザーによって OS レベルで作成された SAP Message Server は削除されません。

注 - このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「SAP Message Server」 セクションで、「Delete」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the message server このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」 ページに戻って「View All」 リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Message Server を起動する

SAP Message Server の起動の前には、プラグインは依存関係を一切チェックしません。起動後に、プラグインは主プロセスが動作していることを検査します。SAP Message Server の主プロセスは、message server プロセスです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Message Server」セクションで、「Start」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the message server component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Message Server を停止する

SAP コンポーネントがオフラインの場合は、プランは、ほかのアクションを行わなくても正常に完了します。SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは、SAP コンポーネントを停止します。

正常に停止されなかった場合で、かつ「Force Stop」オプションを選択している場合は、プランは主プロセスを終了することによってハードストップを実行します。その後、プランはSAPコンポーネントがオフラインであることを検査します。オフラインであれば、プランは正常に完了します。

SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは失敗します。ステータスを判別するために使用されるプロセスは、message server プロセスです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。

- 2 「SAP Tasks」 ページの「SAP Message Server」 セクションで、「Stop」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the SAP message server component
このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」 ページに戻って「View All」 リンクをクリックします。
Force stop SAP Message Server after the graceful stop failed in the default environment
このオプションは、デフォルトで選択されています。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべての SAP Message Server を表示する

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「SAP Message Server」 セクションで、「View All」 をクリックします。
「Hosts Where Installed」 表が表示されます。

▼ SAP Message Server のオンラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

SAP Message Server の主プロセスは、message server プロセスです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「SAP Message Server」 セクションで、「Online Status」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。

- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the SAP message server component
このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Message Server のオフラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

SAP Message Server の主プロセスは、message server プロセスです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「SAP Message Server」セクションで、「Offline Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path of the SAP message server component
このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

SAP Application Server の作成、管理、およびインストール

ソフトウェアの「Common Tasks」ページを使用して、SAP Application Server のインスタンスを作成、管理できます。

ここでは、SAP Application Server の作成、SAP Application Server のインストールに必要な、次のタスクについて説明しています。

- 91 ページの「Application Server の作成と管理」
- 98 ページの「アプリケーションサーバーのインストール」

Application Server の作成と管理

SAP Application Server のインストール、アンインストール、および管理には、次にあげる手順を使用します。

- 91 ページの「アプリケーションサーバーを作成する」
- 93 ページの「アプリケーションサーバーを削除する」
- 94 ページの「アプリケーションサーバーを起動する」
- 95 ページの「SAP Application Server を停止する」
- 96 ページの「すべてのアプリケーションサーバーインスタンスを表示する」
- 96 ページの「アプリケーションサーバーインスタンスのオンラインステータスを確認する」
- 97 ページの「アプリケーションサーバーインスタンスのオフラインステータスを確認する」

▼ アプリケーションサーバーを作成する

このタスクは、SPS データベースに SAP Application Server エントリを作成します。

注- このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Application Server」セクションで、「Create」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」表で、AppServer コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。

- 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」をクリックします。
 - 「Select Variable Settings From List」ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」を選択して「Set Name」に設定名を入力します。

次のリストに、AppServer コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページの「ユーザーによる終了」](#)を参照してください。

| | |
|---|--|
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| <hr/> | |
| 注 - Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。 | |
| <hr/> | |
| groupDescription | グループの説明です。 |
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。 |
| envType | このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAP AC 環境のうちどの環境に配備されるかを識別します。値は、ac、sc、または default です。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |
| ciLhName | デフォルトインストールの場合のみ必須です。この値は、主要インスタンスの論理ホスト名になります。 |
| asLhName | デフォルト環境では必須です。この値は、アプリケーションサーバーの論理ホスト名になります。 |
| sapSid | デフォルト環境では必須です。SAP システム ID は、大文字の英数字 3 文字です。最初の文字は英字である必要があります。 |
| asSystemInstanceNumber | デフォルト環境では必須です。アプリケーションサーバーのインスタンス番号です。入力された変数から生成されます。 |

| | |
|------------------------------|---|
| <code>instanceSize</code> | 入力された変数から生成されるアプリケーションサーバーインスタンスの容量です。取り得る値は、 <code>small</code> 、 <code>medium</code> 、または <code>big</code> です。デフォルト値: <code>medium</code> 。 |
| <code>accServiceID</code> | SAP AC 環境では必須です。SAP Application Server インスタンスのサービス ID です (SAP AC 環境にのみ適用)。 |
| <code>srmProject</code> | SRM (Solaris Resource Management) プロジェクト名です。デフォルト値: <code>default</code> 。 |
| <code>ciInstanceName</code> | デフォルト環境では必須です。主要インスタンスの名前です (SAP Central Instance 起動プロファイル)。 |
| <code>isNewSapVersion</code> | デフォルト環境では必須です。TRUE の場合は、アプリケーションサーバーの起動および停止に、主要スクリプトが使用されます。FALSE の場合は、アプリケーションサーバーの起動および停止に、SAP ユーザーのホームディレクトリにあるインスタンス固有の起動および停止スクリプトが使用されます。デフォルト値: TRUE。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ アプリケーションサーバーを削除する

このタスクは、SPS データベースから SAP Application Server エントリを削除します。

注-このタスクは、markOnly タスクです。

- 1 Sun N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。

- 2 「SAP Tasks」 ページの「Application Server」 セクションで、「Delete」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
InstallPath of the AppServer component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」 ページに戻って「View All」 リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。
「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ アプリケーションサーバーを起動する

SAP Application Server の起動の前には、プラグインは依存関係を一切チェックしません。起動後に、プラグインは主プロセスが動作していることを検査します。SAP Application Server の主プロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- 主ディスパッチャープロセスの子である2つの dw プロセス

SAP Application Server のインストール時に、その起動および停止に主要スクリプトを使用するよう指定されている場合は、プラグインは、次のような主要 SAP スクリプトを使用してアプリケーションサーバーを起動します。

```
startsap r3 Dinstance-num_logical-host
```

SAP Application Server のインストール時に主要スクリプトが指定されていない場合は、プラグインは、*sidadm* ユーザーのホームディレクトリにある次のスクリプトを使用してアプリケーションサーバーを起動します。

```
startsap_Dinstance-num_logical-host
```

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「Application Server」 セクションで、「Start」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

5 プラン変数を指定します。

InstallPath of the SAP application server component to start

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

Force start the application server instance on a small server (currently only applicable for the SAP AC environment)

このオプションは、ターゲットホストが、SAP インスタンスを起動するための SAPS の要件に合致していない場合は必須です。SAP インスタンスを起動するための最低要件については、SAP のインストールガイドを参照してください。

注-このオプションは、SAPAC 環境にのみ適用されます。

6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ SAP Application Server を停止する

SAP コンポーネントがオフラインの場合は、プランは、ほかのアクションを行わなくても正常に完了します。SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは、SAP コンポーネントを停止します。

正常に停止されなかった場合で、かつユーザーが「Force Stop」 オプションを選択している場合は、プランは主プロセスを終了することによってハードストップを実行します。その後、プランは SAP コンポーネントがオフラインであることを検査します。オフラインであれば、プランは正常に完了します。SAP コンポーネントがオフラインでない場合は、プランは失敗します。ステータスを判別するために使用されるプロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- 主ディスパッチャープロセスの子である 2 つの dw プロセス

SAP Application Server のインストール時に、その起動および停止に主要スクリプトを使用するよう指定されている場合は、プラグインは、次のような主要 SAP スクリプトを使用してアプリケーションサーバーを停止します。

```
stopsap r3 Dinstance-num_logical-host
```

SAP Application Server のインストール時に主要スクリプトが指定されていない場合は、プラグインは、*sidadm* ユーザーのホームディレクトリにある次のスクリプトを使用してアプリケーションサーバーを停止します。

```
stopsap_Dinstance-num_logical-host
```

1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。

2 「SAP Tasks」 ページの「Application Server」 セクションで、「Stop」 をクリックします。

3 「Run」 をクリックします。

4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

5 プラン変数を指定します。

InstallPath of the SAP application server component to stop

このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」 ページに戻って「View All」 リンクをクリックします。

Force stop SAP application server after the graceful stop failed in the default environment

このオプションは、デフォルトで選択されています。

6 「Run Plan (includes preflight)」 ボタンをクリックします。

「Deployment Results」 ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべてのアプリケーションサーバーインスタンスを表示する

このタスクを実行すると、SAP Application Server インストールごとにエントリが付いた「Hosts Where Installed」 表が表示されます。

1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。

2 「SAP Tasks」 ページの「Application Server」 セクションで、「View All」 をクリックします。

「Hosts Where Installed」 表が表示されます。

▼ アプリケーションサーバーインスタンスのオンラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

注 -SAPAC はサポートされていません。

主プロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- 主ディスパッチャープロセスの子である 2 つの dw プロセス

1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。

- 2 「SAP Tasks」ページの「Application Server」セクションで、「Online Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
InstallPath of the application server component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ アプリケーションサーバーインスタンスのオフラインステータスを確認する

システムに主プロセスが存在する場合、リソースはオンラインと見なされます。システムに主プロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。システムに主SAPプロセスが存在しない場合、プラグインは、リソースがオフラインであることを特定します。

主プロセスは、次のとおりです。

- main dispatcher
- 主ディスパッチャープロセスの子である2つのdwプロセス

注-SAPACはサポートされていません。

- 1 N1 SPSのブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Application Server」セクションで、「Offline Status」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。

InstallPath of the application server component このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。

- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

アプリケーションサーバーのインストール

インストールには次の2種類の方法があります。

- 98 ページの「デフォルトの例外ファイルを使用するアプリケーションのインストール」
- 101 ページの「カスタム例外ファイルを使用するアプリケーションサーバーのインストール」

デフォルトの例外ファイルを使用するアプリケーションのインストール

SAP プラグインには、SAP Application Server のデフォルトの例外ファイルが含まれています。このデフォルトの例外ファイルには、デフォルトインストールを行うのに必要な、すべてのコンポーネント変数が含まれています。

- 98 ページの「デフォルトの例外ファイルを使用して SAP Application Server をインストールする」
- 100 ページの「デフォルトの例外ファイルを使用して SAP Application Server をアンインストールする」
- 101 ページの「すべてのデフォルトの例外ファイルを使用する SAP Application Server インスタンスを表示する」

▼ デフォルトの例外ファイルを使用して **SAP Application Server** をインストールする

アプリケーションサーバーの配備を成功させるためには、スーパーユーザーには、アプリケーションサーバーの新しいインスタンスの配備先マシンの SAP ファイルシステムに対して読み取り/書き込み権限がある必要があります。SAP ファイルシステムは、次のオプションの1つを使用して共有されている必要があります。

- `rw,anon=0`
- `rw,root=client1:client2:client3`

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。

- 2 「SAP Tasks」 ページの「Application Server With Default Exception File」 セクションで、「Install」 をクリックします。
- 3 「Run」 をクリックします。
- 4 「Plan Parameters」 表で、AppServerWithDefaultExceptionFile コンポーネントの変数設定を選択します。
 - このコンポーネント用に変数設定が作成されている場合は、ドロップダウンメニューから適切な設定を選択します。
 - 変数設定が、ドロップダウンメニューから選択できない場合は、次のようにします。
 - a. 「Select From List」 をクリックします。
「Select Variable Settings From List」 ウィンドウが表示されます。
 - 新しい変数設定を作成するには、「Create Set」 を選択して「Set Name」 に設定名を入力します。

次のリストに、AppServerWithDefaultExceptionFile コンポーネントの変数のうち、更新する可能性が高い変数を示します。コンポーネント変数の値を作成するには、コンポーネント変数の行にあるチェックボックスをクリックします。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、[107 ページ](#)の「ユーザーによる終了」を参照してください。

| | |
|------------------------|--|
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。 |
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| installPath | インストールの場所です。ユーザーは、このパスを変更することができます。 |
| ciLhName | デフォルト環境のインストールでは必須です。この値は、主要インスタンスの論理ホスト名になります。 |
| asLhName | デフォルト環境では必須です。この値は、アプリケーションサーバーの論理ホスト名になります。 |
| sapSid | デフォルト環境では必須です。SAP システム ID は、大文字の英数字 3 文字です。最初の文字は英字である必要があります。 |
| asSystemInstanceNumber | デフォルト環境では必須です。アプリケーションサーバーのインスタンス番号です。 |

| | |
|-----------------|---|
| ciInstanceName | このフィールドは必須です。主要インスタンス番号です。入力された変数から生成されます。 |
| instanceSize | アプリケーションサーバーインスタンスの容量です。取り得る値は、small、medium、および large です。デフォルト値: medium。 |
| envType | このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAP AC 環境のうちどの環境に配備されるかを識別します。値は、ac、sc、または default です。デフォルト値: default。 |
| accServiceID | この SAP AC サービス ID は、SAP AC 環境では必須です。 |
| srmProject | SRM (Solaris Resource Management) プロジェクト名です。デフォルト値: default。 |
| isNewSapVersion | このフィールドは必須です。TRUE の場合は、アプリケーションサーバーの起動および停止に、主要スクリプトが使用されます。FALSE の場合は、アプリケーションサーバーの起動および停止に、SAP ユーザーのホームディレクトリにあるインスタンス固有の起動および停止スクリプトが使用されます。デフォルト値: default。 |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |

b. 「Save」をクリックします。

- 別のコンポーネントからコンポーネント変数を使用するには、「Import Set」をクリックします。

変数セットのインポートに関する詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 オペレーションとプロビジョニングガイド』の「プランを実行する」を参照してください。

5 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。

6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。

「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ デフォルトの例外ファイルを使用して **SAP Application Server** をアンインストールする

このプランは、デフォルトの例外ファイルを使用して SAP Application Server をアンインストールします。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Application Server With Default Exception File」セクションで、「Uninstall」をクリックします。
- 3 「Run」をクリックします。
- 4 ターゲットホストまたはターゲットホストセットを選択します。
- 5 プラン変数を指定します。
Install path for the application server installed with default exception file
このフィールドは必須です。インストールパスがわからない場合は、「SAP Tasks」ページに戻って「View All」リンクをクリックします。
- markOnly delete
markOnly delete チェックボックスを選択すると、SPS データベースからアプリケーションサーバーコンポーネントが削除されます。markOnly delete チェックボックスを選択した場合は、アプリケーションサーバーコンポーネントは SPS データベースから削除され、アプリケーションサーバーは OS レベルで削除されます。
- 6 「Run Plan (includes preflight)」ボタンをクリックします。
「Deployment Results」ページが表示されます。プランが失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

▼ すべてのデフォルトの例外ファイルを使用する SAP Application Server インスタンスを表示する

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Application Server With Default Exception File」セクションで、「View All」をクリックします。
「Host Where Installed」表が表示されます。

カスタム例外ファイルを使用するアプリケーションサーバーのインストール

カスタム例外ファイルを使用して、アプリケーションサーバーの配備に使用する独自の変数のセットを作成できます。

この節では、次のタスクについて説明します。

- 103 ページの「すべての例外ファイルコンポーネントを表示する」
- 104 ページの「アプリケーションサーバーコンポーネントを作成する」

- 106 ページの「すべてのアプリケーションサーバーコンポーネントを表示する」
- 106 ページの「カスタム例外ファイルを使用するアプリケーションサーバーのインストールプランを作成する」

▼ カスタム例外ファイルコンポーネントを作成する

カスタム例外ファイルを作成すると、SPS にカスタム例外ファイルを提供し、チェックインできます。アプリケーションの配備に、プラグインが提供するデフォルトの例外ファイルの代わりに、カスタム例外ファイルを使用できます。

始める前に カスタム例外ファイルは、カスタム例外ファイルコンポーネントが作成されたマシンから使用可能である必要があります。

- 1 カスタム例外ファイルを作成します。
詳細は、117 ページの「例外ファイルの例」を参照してください。
- 2 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 3 「SAP Tasks」ページの「Application Server With Custom Exception File」セクションで、「Create Component」をクリックします。
- 4 コンポーネント情報を指定します。

| | |
|-------------|---|
| Component | このフィールドは必須です。コンポーネント名です。 |
| Type | この値は、com.sun.sap#AppServerWithExceptionFile のままにしておきます。 |
| Platform | 具体的にプラットフォームを選択するか、デフォルトの値 system#any のままにしておきます。 |
| Label | コンポーネントの短い説明です。 |
| Description | コンポーネントの説明です。 |
- 5 ホストから例外ファイルをインポートします。
 - a. 「Select From List」リンクをクリックします。
 - b. 「Current Hosts Found」リストからホストを選択します。
 - c. 「Add Hosts to Main Window」ボタンをクリックします。
 - d. 「Refresh」をクリックします。
 - e. 例外ファイルにナビゲートして、それを選択します。

- 6 必要に応じて追加のオプションを選択します。
 - force check in when items have not changed
 - remember the user that owns this item
 - remember the group that owns this item
 - path of the resource descriptor file
リソース記述子ファイルについての詳細は、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 XML スキーマリファレンスガイド』の「リソース記述子ファイルの使用」を参照してください。
- 7 「Check In Selected Item」 ボタンをクリックします。
「Check In」 画面が表示されます。
- 8 コンポーネント名を指定します。
必要な場合は、コンポーネント名を変更できます。例:
MyCustomExceptionFileComponent。
- 9 「Change Folder」 リンクをクリックします。
- 10 /com/sun/n1aa/exceptionfiles ディレクトリに変更します。
詳細については、『Sun N1 Service Provisioning System 5.2 システム管理者ガイド』の第6章「フォルダの設定」を参照してください。
- 11 「Change To Selected Folder」 ボタンをクリックします。
- 12 「Continue to Check In」 ボタンをクリックします。
「Components」 表が表示されます。

▼ すべての例外ファイルコンポーネントを表示する

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」 セクションで、「SAP」 をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」 ページの「Application Server With Custom Exception File」 セクションで、「View All Components」 をクリックします。
- 3 「View Current Component Check-Ins」 ボタンをクリックします。
デフォルトの例外ファイル、および以前にチェックインしたすべてのカスタム例外ファイルが表示されます。
チェックインしたコンポーネントが表示されない場合は、「Change Folder」 リンクをクリックして、コンポーネントを作成したフォルダに変更します。

▼ アプリケーションサーバーコンポーネントを作成する

このタスクは、SPS データベースに SAP Application Server コンポーネントを作成します。この SAP Application Server は、OS レベルで新しい SAP Application Server を配備、作成するために、Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions によって使用されます。

- 1 N1 SPS のブラウザインタフェースの「Common Tasks」セクションで、「SAP」をクリックします。
- 2 「SAP Tasks」ページの「Application Server With Custom Exception File」セクションで、「Create Component」をクリックします。
- 3 コンポーネント情報を生成します。

注 - UserExit で終わるコンポーネント変数の詳細については、107 ページの「ユーザーによる終了」を参照してください。

| | |
|-----------------------|--|
| Component | このフィールドは必須です。コンポーネント名です。コンポーネント名の形式は、ASWithcustom-exception-filename です。custom-exception-filename は前に作成したコンポーネントです。 例: ASWithMyCustomExceptionFile 。このコンポーネントは、/com/sun/n1aa/exceptionfiles ディレクトリにある必要があります。 |
| Type | この値は、com.sun.sap#AppServerWithExceptionFile のままにしておきます。 |
| Platform | 具体的にプラットフォームを選択するか、デフォルトの値 system#any のままにしておきます。 |
| Label | 短い説明です。 |
| Description | コンポーネントの説明です。 |
| Referenced Components | <ol style="list-style-type: none"> a. 例外ファイルコンポーネントの「Reference Existing」リンクをクリックします。 b. 例外ファイルを選択します。 c. 「Reference Checked Components」ボタンをクリックします。 <p style="text-align: center;">「Add Component Variables」表が表示されます。</p> |

注 - この表は、コンポーネント変数がない場合は空です。

- d. 「Continue to Reference Components」 ボタンをクリックします。

4 コンポーネント変数を生成します。

| | |
|---|--|
| resourceName | Sun Cluster 環境では必須です。 |
| groupName | このフィールドは必須です。 |
| <hr/> | |
| 注 - Sun Cluster 環境では、groupName は Sun Cluster のリソースグループ名と等しくなければなりません。 | |
| <hr/> | |
| installPath | インストールの場所です。 |
| ciLhName | デフォルト環境のインストールでは必須です。主要インスタンスの論理ホストです。 |
| asLhName | デフォルト環境では必須です。アプリケーションサーバーの論理ホストです。 |
| sapSid | デフォルト環境では必須です。SAP システム ID です (大文字の英数字 3 文字)。最初の文字は英字である必要があります。 |
| asSystemInstanceNumber | デフォルト環境では必須です。アプリケーションサーバーのインスタンス番号です。 |
| ciInstanceName | このフィールドは必須です。主要インスタンス番号です。入力された変数から生成されます。 |
| instanceSize | アプリケーションサーバーインスタンスの容量です。デフォルト値: medium。 |
| envType | このコンポーネントが、デフォルト環境、Sun Cluster 環境、または SAP AC 環境のうちどの環境に配備されるかを特定します。値は、ac、sc、または default です。デフォルト値: default。 |
| accServiceID | SAP AC 環境では必須です。SAP AC サービス ID です。 |
| srmProject | SRM (Solaris Resource Management) プロジェクト名です。デフォルト値: default。 |
| isNewSAPVersion | このフィールドは必須です。TRUE の場合は、アプリケーションサーバーの起動および停止に、主要スクリプトが使用されます。FALSE の場合は、アプリケーションサーバーの起動および停止に、SAP ユーザーのホームディレクトリにあるインスタンス固有の起動および停止スクリプトが使用されません。デフォルト値: TRUE |
| createdBy | コンポーネントのインストーラを特定します。 |

5 「**Check In**」をクリックします。

6 「**Continue to Check In**」をクリックします。

これで、カスタム例外ファイルコンポーネントを使用するアプリケーションサーバーの作成は完了しました。

▼ すべてのアプリケーションサーバーコンポーネントを表示する

1 **N1 SPS**のブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。

2 「**SAP Tasks**」ページの「**Application Server With Custom Exception File**」セクションで、「**View All Components**」をクリックします。
「**Components**」表が表示されます。

▼ カスタム例外ファイルを使用するアプリケーションサーバーのインストールプランを作成する

1 「**Application Server with Custom Exception File**」コンポーネントを選択します。

次のうちの1つを実行し、プランを作成するタスクを開始します。

- 「**Components Details**」画面を表示している場合
 - a. 「**default: install**」を選択します。
- 「**Common Tasks**」ページから操作する場合
 - a. **N1 SPS**のブラウザインタフェースの「**Common Tasks**」セクションで、「**SAP**」をクリックします。
 - b. 「**SAP Tasks**」ページの「**Application Server With Custom Exception File**」セクションで、「**View All Components**」をクリックします。
 - c. 適切なカスタム例外ファイルを使用するアプリケーションサーバーを選択します。
 - d. コンポーネントプロシージャ表から、**default:install** プロシージャを選択します。

2 「**Generate Plan With Checked Procedures**」をクリックします。

「**plans details advanced edit**」ページが表示されます。

3 プラン名を入力します。

プラン名の形式は、**Installcomponent-namePlan**です。例:

InstallASWithMyCustomExceptionFilePlan。

- 4 プラン定義を編集します。
 - a. <paramList> から </paramList> までを削除します。
 - b. <argList> から </argList> までを削除します。
- 5 「Check In」 ボタンをクリックします。
「Plans Details Edit Check In」 画面が表示されます。

注-次のような警告が表示される場合がありますが、これは無視してかまいません。

```
warning - plan names and/or paths differ
```

- 6 「Continue To Check In」 ボタンをクリックします。
「Plans Details」 画面が表示されます。
- 7 「Done」 をクリックします。
「Plans」 表が表示されます。

ユーザーによる終了

次にあげるユーザーによる終了は、多くのプランの変数設定で使用します。これらのコンポーネント変数の値は、それぞれのスクリプトファイルへの絶対パスです。スクリプトは、それらの呼び出し元であるマシン上にある必要があります。実行可能ファイル(たとえばスクリプトまたはバイナリ)であれば何でもかまいません。

| | |
|----------------------|-----------------------------------|
| preStartUserExit | リソースを起動する前にカスタムスクリプトユーザーが実行します。 |
| postStartUserExit | リソースを起動したあとにカスタムスクリプトユーザーが実行します。 |
| preStopUserExit | リソースを停止する前にカスタムスクリプトユーザーが実行します。 |
| postStopUserExit | リソースを停止したあとにカスタムスクリプトユーザーが実行します。 |
| preRelocateUserExit | リソースを再配置する前にカスタムスクリプトユーザーが実行します。 |
| postRelocateUserExit | リソースを再配置したあとにカスタムスクリプトユーザーが実行します。 |

コンポーネントタイプ

SAPプラグインには、複数の固有のコンポーネントタイプがあります。これらのコンポーネントタイプを使用すると、最も一般的なアプリケーションコンポーネントの多くを素早くモデル化し、特定のリソースとインストール、アンインストール、エクスポート、およびスナップショット動作を自動的に関連付けることができます。コンポーネントタイプの多くは、このソフトウェアがサーバーやクラスタを作成および管理するときに使用されます。このため、ユーザーが直接使用するコンポーネントタイプはわずかです。

GDS コンポーネント

次のプランは、Sun N1 Advanced Architecture for SAP Solutions ソフトウェアを通じてグループレベルで GDS (Generic Data Service) コンポーネントを操作するために必要です。

- 108 ページの「GDSResourceType を使用して GDS コンポーネントを作成する」
- 110 ページの「GDS リソースの作成のプランを生成する」
- 110 ページの「GDS リソースの削除のプランを生成する」
- 112 ページの「GDS リソースの起動のプランを生成する」
- 113 ページの「GDS リソースの停止のプランを生成する」
- 114 ページの「GDS リソースの isOnline プランを生成する」
- 115 ページの「GDS リソースの isOffline プランを生成する」



注意-プランの命名の取り決めについては、例に従ってください。従っていない場合は、プランは失敗します。

▼ GDSResourceType を使用して **GDS** コンポーネントを作成する

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Application Deployment」セクションで「Components」をクリックします。
- 2 フォルダを /com/sun/n1aa/GDS に変更します。
- 3 「Create」リンクをクリックしてコンポーネントを作成します。
- 4 コンポーネント名を入力します。
- 5 「type」に「untyped」を選択します。
- 6 終了コンポーネント要素 </component> の前に次のテキストを挿入します。

```
<extends>
  <type name="com.sun.sap#GDSResourceType"></type>
</extends>
```

```

<installList>
  <installSteps name="createDependency" access="PROTECTED">
    <paramList>
      <param name="grpInstallPath"/>
    </paramList>
    <try>
      <block>
        <!-- Replace dependency name, RunLevel1, with your desired run-level. -->
        <!-- Following are the pre-defined dependency names -->
        <createDependency name="RunLevel1">
          <installedComponent name="Group" path="/com/sun/sap/resourcetypes"
            installPath=":[grpInstallPath]"></installedComponent>
        </createDependency>
      </block>
    </try>
  </installSteps>
</installList>

```

- 7 <createDependency> 要素を含む行の、依存関係の名前を変更します。
有効な依存関係名は、次のとおりです。

```

RunLevel1 through RunLevel5
NFSMount2Group
RunLevel7 through RunLevel11
HASStoragePlus2Group
RunLevel13 through RunLevel17
LogicalHost2Group
RunLevel19 through RunLevel23
Oracle2Group
RunLevel25 through RunLevel29
CentralInstance2Group
RunLevel31 through RunLevel35
EnqueueServer2Group
RunLevel37 through RunLevel41
MessageServer2Group
RunLevel43 through RunLevel47
AppServerWithExceptionFile2Group
RunLevel49 through RunLevel53
AppServer2Group
RunLevel55 through RunLevel59
NFSShare2Group
RunLevel61 through RunLevel65

```

- 8 「Check In」をクリックします。
- 9 「Continue to Check In」をクリックします。

▼ GDS リソースの作成のプランを生成する

このタスクは、markOnlyタスクです。

注-このプランには、プランパラメータはありません。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Application Deployment」セクションで「Components」をクリックします。
- 2 フォルダを、/com/sun/n1aa/GDSに変更します。
- 3 作成された GDS コンポーネントの「Details」リンクをクリックします。
- 4 install:default プロシージャのチェックボックスを選択します。
install:markOnly プロシージャのチェックボックスも選択できます。

注-GDS コンポーネントの installSteps を上書きしないかぎり、デフォルトインストールと markOnly インストールは同じです。

- 5 「Generate Plan With Checked Procedures」リンクをクリックします。
- 6 プラン名を、**Creategds-component-namePlan** の形式で入力します。
gds-component-name は、108 ページの「GDSResourceType を使用して GDS コンポーネントを作成する」のタスクで作成したコンポーネント名です。
- 7 XML テキストの <executionPlan> 要素で、属性名を **Creategds-component-namePlan** に変更します。
- 8 「Check In」をクリックします。
- 9 「Continue to Check In」をクリックします。

▼ GDS リソースの削除のプランを生成する

このタスクは、markOnlyタスクです。

注-プランのパラメータは、installPathだけです。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「**Application Deployment**」セクションで「**Components**」をクリックします。
- 2 フォルダを、/com/sun/n1aa/GDSに変更します。
- 3 作成されたGDSコンポーネントの「**Details**」リンクをクリックします。
- 4 uninstall:default プロシージャのチェックボックスを選択します。
uninstall:markOnly プロシージャのチェックボックスも選択できます。
- 5 「**Generate Plan With Checked Procedures**」リンクをクリックします。
- 6 プラン名を、**Deletegds-component-namePlan**の形式で入力します。
gds-component-name は、108 ページの「[GDSResourceType を使用して GDS コンポーネントを作成する](#)」の項で作成したコンポーネント名です。
- 7 XML テキストの <executionPlan> 要素で、属性名を **Deletegds-component-namePlan** に変更します。
- 8 <simpleSteps> 要素の前に、プランのパラメータとして installPath を追加します。
たとえば、次のようなテキストを含めてプランのパラメータを挿入します。

```
<paramList>
  <param name="installPath" default="" prompt="Install path of the GDS component"></param>
</paramList>
```

- 9 XML テキストの <installedComponent> 要素に、installPath=':[installPath]' 属性を追加します。

次に例を示します。

installPath を追加する前。

```
<uninstall blockName='default'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS'></installedComponent>
</uninstall>
```

installPath を追加したあと。

```
<uninstall blockName='default'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS' installPath=':[installPath]'></installedComponent>
</uninstall>
```

- 10 「**Check In**」をクリックします。
- 11 「**Continue to Check In**」をクリックします。

▼ GDS リソースの起動のプランを生成する

注- プランのパラメータは、installPathだけです。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「**Application Deployment**」セクションで「**Components**」をクリックします。
- 2 フォルダを、/com/sun/n1aa/GDSに変更します。
- 3 作成されたGDSコンポーネントの「**Details**」リンクをクリックします。
- 4 start プロシージャのチェックボックスを選択します。
- 5 「**Generate Plan With Checked Procedures**」リンクをクリックします。
- 6 プラン名を、**Startgds-component-namePlan**の形式で入力します。
gds-component-name は、108 ページの「[GDSResourceType を使用して GDS コンポーネントを作成する](#)」の項で作成したコンポーネント名です。
- 7 XML テキストの <executionPlan> 要素で、属性名を **Startgds-component-namePlan** に変更します。
- 8 <simpleSteps> 要素の前の、**forceStart** パラメータを含む <paramList> エントリを削除します。
- 9 <simpleSteps> 要素の前に、プランのパラメータとして installPath を追加します。
たとえば、次のようなテキストを含めてプランのパラメータを挿入します。

```
<paramList>
  <param name="installPath" default=""
    prompt="Install path of the GDS component"></param>
</paramList>
```
- 10 <call blockName='start'> のあとにある <argList> の行を削除して、起動を制御する引数を削除します。
- 11 XML テキストの <installedComponent> 要素に、installPath=':[installPath]' 属性を追加します。
たとえば、installPath を追加する前は次のようになっています。

```
<call blockName='start'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS'></installedComponent>
</call>
```

installPath を追加したあとは、次のようになります。

```
<call blockName='start'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS' installPath=':[installPath]'/></installedComponent>
</call>
```

- 12 「**Check In**」をクリックします。
- 13 「**Continue to Check In**」をクリックします。

▼ GDS リソースの停止のプランを生成する

注-プランのパラメータは、installPath だけです。

- 1 **N1 SPS** ブラウザインタフェースの「**Application Deployment**」セクションで「**Components**」をクリックします。
- 2 フォルダを、/com/sun/n1aa/GDS に変更します。
- 3 作成された **GDS** コンポーネントの「**Details**」リンクをクリックします。
- 4 stop プロシージャのチェックボックスを選択します。
- 5 「**Generate Plan With Checked Procedures**」リンクをクリックします。
- 6 プラン名を、**Stopgds-component-namePlan** の形式で入力します。
gds-component-name は、108 ページの「**GDSResourceType** を使用して **GDS** コンポーネントを作成する」の項で作成したコンポーネント名です。
- 7 **XML** テキストの <executionPlan> 要素で、属性名を **Stopgds-component-namePlan** に変更します。
- 8 <simpleSteps> 要素の前の、shutdownMode および forceStop パラメータを含む paramList 要素を削除します。
- 9 <simpleSteps> 要素の前に、プランのパラメータとして installPath を追加します。
たとえば、次のようなテキストを含めてプランのパラメータを挿入します。

```
<paramList>
  <param name="installPath" default=""
    prompt="Install path of the GDS component"/></param>
</paramList>
```

- 10 <call blockName='stop'>のあとにある <argList> の行を削除して、制御を停止する引数を削除します。
- 11 XMLテキストの<installedComponent>要素に、installPath=':[installPath]' 属性を追加します。
次に例を示します。
installPathを追加する前。

```
<call blockName='stop'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS'></installedComponent>
</call>
```

installPathを追加したあと。

```
<call blockName='stop'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS' installPath=':[installPath]'></installedComponent>
</call>
```
- 12 「Check In」をクリックします。
- 13 「Continue to Check In」をクリックします。

▼ GDS リソースの isOnline プランを生成する

注- プランのパラメータは、installPathだけです。

- 1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Application Deployment」セクションで「Components」をクリックします。
- 2 フォルダを、/com/sun/n1aa/GDSに変更します。
- 3 作成された GDS コンポーネントの「Details」リンクをクリックします。
- 4 isOnline プロシージャのチェックボックスを選択します。
- 5 「Generate Plan With Checked Procedures」リンクをクリックします。
- 6 プラン名を、`!sgds-component-nameOnlinePlan` の形式で入力します。
`sgds-component-name` は、108 ページの「GDSResourceType を使用して GDS コンポーネントを作成する」の項で作成したコンポーネント名です。

7 XMLテキストの<executionPlan>要素で、属性名を `Isgds-component-nameOnlinePlan` に変更します。

8 <simpleSteps>要素の前に、プランのパラメータとして `installPath` を追加します。たとえば、次のようなテキストを含めてプランのパラメータを挿入します。

```
<paramList>
  <param name="installPath" default=""
    prompt="Install path of the GDS component"></param>
</paramList>
```

9 XMLテキストの<installedComponent>要素に、`installPath=':[installPath]'`属性を追加します。

たとえば、`installPath` を追加する前は次のようになっています。

```
<call blockName='isOnline'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS'></installedComponent>
</call>
```

`installPath` を追加したあとは、次のようになります。

```
<call blockName='isOnline'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS' installPath=':[installPath] '></installedComponent>
</call>
```

10 「Check In」をクリックします。

11 「Continue to Check In」をクリックします。

▼ GDS リソースの **isOffline** プランを生成する

注-プランのパラメータは、`installPath` だけです。

1 N1 SPS ブラウザインタフェースの「Application Deployment」セクションで「Components」をクリックします。

2 フォルダを、`/com/sun/n1aa/GDS` に変更します。

3 作成された GDS コンポーネントの「Details」リンクをクリックします。

4 `isOffline` プロシージャのチェックボックスを選択します。

5 「Generate Plan With Checked Procedures」リンクをクリックします。

- 6 プラン名を、`lsgds-component-nameOfflinePlan` の形式で入力します。
`gds-component-name` は、108 ページの「GDSResourceType を使用して GDS コンポーネントを作成する」の項で作成したコンポーネント名です。
- 7 XML テキストの `<executionPlan>` 要素で、属性名を `lsgds-component-nameOfflinePlan` に変更します。
- 8 `<simpleSteps>` 要素の前に、プランのパラメータとして `installPath` を追加します。
たとえば、次のようなテキストを含めてプランのパラメータを挿入します。

```
<paramList>
  <param name="installPath" default=""
    prompt="Install path of the GDS component"></param>
</paramList>
```
- 9 XML テキストの `<installedComponent>` 要素に、`installPath=':[installPath]'` 属性を追加します。
たとえば、`installPath` を追加する前は次のようになっています。

```
<call blockName='isOffline'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS'></installedComponent>
</call>
```

`installPath` を追加したあとは、次のようになります。

```
<call blockName='isOffline'>
  <installedComponent name='gds' versionOp='=' version='1.0'
    path='/com/sun/n1aa/GDS' installPath=':[installPath] '></installedComponent>
</call>
```
- 10 「Check In」 をクリックします。
- 11 「Continue to Check In」 をクリックします。

トラブルシューティング

プロビジョニングソフトウェアを通じて SAP プラグインを管理しているときに問題が生じた場合は、画面にメッセージが表示され問題があることが通知されます。

たとえば、大域ゾーンであると認識されていないターゲットホストに対し、ローカルゾーンを作成しようとする、次のようなメッセージが表示されます。

```
Problems encountered during plan run or preflight
```

```
The plan (or preflight) "/system/autogen/Container-inst-create-1098225529078"
```

finished with 1 failed host(s).

The specified target host "masterserver" was not in the required host set "com.sun.solaris#global_zones" for component "/com/sun/solaris/Container".

この例のメッセージは明確に表示されていますが、すべてのメッセージが必ずしもこのメッセージのようにわかりやすいわけではありません。特定の問題に関する詳細については、「Details」リンクをクリックしてください。

例外ファイルの例

```
# List of all parameters that are different between the application
# instance and the central instance
#
# Parameters listed without an assigned value are deleted.
#
# The following character strings are substituted:
#
# @SID@ with actual SID
# @SAPSYS@ with systemname + number of application instance (e.g. D01)
# @SYSNUM@ with systemnumber of application instance
# @LHOST@ with logical hostname of application instance
#
# The parameters in section [COMMON] are valid for all application instances,
# The parameters in the additional sections refer to the corresponding
# selected profile size
#
#

[COMMON]
SAPSYSTEMNAME = @SID@
INSTANCE_NAME = @SAPSYS@
SAPSYSTEM = @SYSNUM@
SAPLOCALHOST = @LHOST@
SAPLOCALHOSTFULL =
icm/server_port_0 =
icm/server_port_1 =
icm/server_port_2 =
rdisp/myname =
rdisp/wp_no_enq =
rslg/send_daemon/listen_port = 37@SYSNUM@
rslg/send_daemon/talk_port = 13@SYSNUM@
DIR_ROLL =
DIR_PAGING =
DIR_DATA =
DIR_REORG =
```

```
DIR_TEMP =  
DIR_SORTTMP =  
  
[SMALL]  
rdisp/wp_no_vb =  
rdisp/wp_no_vb2 =  
rdisp/wp_no_btc =  
em/initial_size_MB = 1024  
  
[MEDIUM]  
rdisp/wp_no_vb = 2  
rdisp/wp_no_vb2 =  
rdisp/wp_no_btc =  
em/initial_size_MB = 2048  
  
[LARGE]  
rdisp/wp_no_vb = 3  
rdisp/wp_no_vb2 =  
rdisp/wp_no_btc =  
em/initial_size_MB = 3072
```

索引

C

Central Instance

- オンラインステータス, 77-78, 78
 - 起動, 75-76
 - 削除, 74-75
 - 作成, 72-74
 - 停止, 76-77
 - 表示, 77
- cr_cli コマンド, 26

G

GDS コンポーネント, 108-116

- 作成, 108-110

GDS リソース

- isOffline プランの生成, 115-116
- isOnline プランの生成, 114-115
- 起動のプランの生成, 112-113
- 作成のプランの生成, 110
- 停止のプランの生成, 113-114

H

HA ストレージデバイス

- オンラインの確認, 53-54
 - 起動, 52
 - 削除, 51
 - 作成, 49-51
 - 停止, 52-53
 - 表示, 53
- HA ストレージデバイスのオフライン, 確認, 54

I

- isOffline プランの生成, GDS リソース, 115-116
- isOnline プランの生成, GDS リソース, 114-115

J

- JAR ファイル, 25
- Java アーカイブ, 「JAR ファイル」を参照

N

NFS

- 共有解除のステータス, 60
 - 共有の解除, 58
 - 表示, 59
- NFS 共有ステータス, 確認, 59

O

Oracle データベース

- オフラインステータス, 71-72
- オンラインステータス, 71
- 起動, 69
- 削除, 68-69
- 作成, 66-68
- 停止, 70
- 表示, 70

S

- SAP Application Server, 91-107
- SAP インスタンス, 一覧表示, 34-35
- SAP グループ
 - 一覧表示, 35-36
 - 管理, 34
 - 変更, 36-37

あ

- アプリケーションサーバー
 - オフラインステータス, 97-98
 - オンラインステータス, 96-97
 - 起動, 94-95
 - 削除, 93-94
 - 作成, 91-93
 - 停止, 95-96
 - 表示, 96
- アプリケーションサーバーコンポーネント
 - 作成, 104-106
 - 表示, 106
- アプリケーションサーバーでのデフォルトの例外ファイルの使用
 - アンインストール, 100-101
 - インストール, 98-101
- アプリケーションサーバーのインストール, デフォルトの例外ファイルを使用, 98-101
- アンインストール, アプリケーションサーバーでのデフォルトの例外ファイルの使用, 100-101

い

- 一覧表示
 - SAP インスタンス, 34-35
 - SAP グループ, 35-36
- インストール, アプリケーションサーバーでのデフォルトの例外ファイルの使用, 98-101

お

- オフラインステータス
 - Oracle データベース, 71-72
 - アプリケーションサーバー, 97-98

SAP グループ (続き)

- キューを入れるサーバー, 84
- メッセージサーバー, 90
- 論理ホスト, 48
- オンラインステータス
 - Central Instance, 77-78, 78
 - Oracle データベース, 71
 - アプリケーションサーバー, 96-97
 - キューを入れるサーバー, 83-84
 - メッセージサーバー, 89-90
 - 論理ホスト, 47-48
- オンラインの確認, HA ストレージデバイス, 53-54

か**確認**

- HA ストレージデバイスのオフライン, 54
- NFS 共有ステータス, 59
- ネットワークファイルシステム (NFS) のマウント解除ステータス, 65-66
- ネットワークファイルシステム (NFS) のマウントステータス, 65

管理

- SAP グループ, 34
- グループ, 38-43

き**起動**

- Central Instance, 75-76
- HA ストレージデバイス, 52
- Oracle データベース, 69
- アプリケーションサーバー, 94-95
- キューを入れるサーバー, 82
- グループ, 40-41
- メッセージサーバー, 88
- 論理ホスト, 46
- 起動のプランの生成, GDS リソース, 112-113
- キューを入れるサーバー
 - オフラインステータス, 84
 - オンラインステータス, 83-84
 - 起動, 82
 - 削除, 81
 - 作成, 79-81

キューを入れるサーバー (続き)

停止, 82-83

表示, 83

共有 NFS

削除, 56-57

作成, 55-56

共有解除のステータス, NFS, 60

共有の解除, NFS, 58

く

グループ

管理, 38-43

起動, 40-41

再配置, 42

削除, 39-40

作成, 38-43

停止, 41-42

グループコンポーネント, 表示, 43

こ

コンポーネント, 14

コンポーネントタイプ, 14

さ

再配置, グループ, 42

削除

Central Instance, 74-75

HA ストレージデバイス, 51

Oracle データベース, 68-69

アプリケーションサーバー, 93-94

キューを入れるサーバー, 81

共有 NFS, 56-57

グループ, 39-40

ネットワークファイルシステム (NFS) マウン
ト, 62-63

プラグイン, 31

メッセージサーバー, 87

論理ホスト, 45-46

作成

Central Instance, 72-74

共有 NFS (続き)

GDS コンポーネント, 108-110

HA ストレージデバイス, 49-51

Oracle データベース, 66-68

アプリケーションサーバー, 91-93

アプリケーションサーバーコンポーネ
ント, 104-106

キューを入れるサーバー, 79-81

共有 NFS, 55-56

グループ, 38-43

ネットワークファイルシステム (NFS) マウン
ト, 61-62

メッセージサーバー, 85-87

論理ホスト, 43-45

作成のプランの生成, GDS リソース, 110

て

停止

Central Instance, 76-77

HA ストレージデバイス, 52-53

Oracle データベース, 70

アプリケーションサーバー, 95-96

キューを入れるサーバー, 82-83

グループ, 41-42

メッセージサーバー, 88-89

論理ホスト, 46-47

停止のプランの生成, GDS リソース, 113-114

デフォルトの例外ファイル, を使用するアプリケー
ションをインストール, 98-101

ね

ネットワークファイルシステム (NFS)

マウント, 63

マウント解除, 64

ネットワークファイルシステム (NFS) のマウント解
除ステータス, 確認, 65-66ネットワークファイルシステム (NFS) のマウントス
テータス, 確認, 65

ネットワークファイルシステム (NFS) マウント

削除, 62-63

作成, 61-62

は

パーツ, プラグイン, 14-18
配備サーバーの要件, プラグイン, 18-19

ひ

表示

Central Instance, 77
HA ストレージデバイス, 53
NFS, 59
Oracle データベース, 70
アプリケーションサーバー, 96
アプリケーションサーバーコンポーネント, 106
キューを入れるサーバー, 83
グループコンポーネント, 43
マウント済みのネットワークファイルシステム
(NFS), 64-65
メッセージサーバー, 89
例外ファイルコンポーネント, 103
論理ホスト, 47

ふ

プラグイン
インポート
CLI, 26
ブラウザ, 26
構成, 26-28
削除, 31
パーツ, 14-18
配備サーバーの要件, 18-19
含まれるもの, 13-14
目的, 13-14
プラグインの構成, 26-28
プラグインファイル, 場所, 25

へ

変更, SAP グループ, 36-37

ま

マウント, ネットワークファイルシステム (NFS), 63
マウント解除, ネットワークファイルシステム
(NFS), 64
マウント済みのネットワークファイルシステム
(NFS), 表示, 64-65

め

メッセージサーバー
オフラインステータス, 90
オンラインステータス, 89-90
起動, 88
削除, 87
作成, 85-87
停止, 88-89
表示, 89

り

リソースタイプ, 14-16
リリースノート
インストールの問題, 21
実行時の問題, 21-22

れ

例外ファイルコンポーネント, 表示, 103

ろ

論理ホスト
オフラインステータス, 48
オンラインステータス, 47-48
起動, 46
削除, 45-46
作成, 43-45
停止, 46-47
表示, 47